

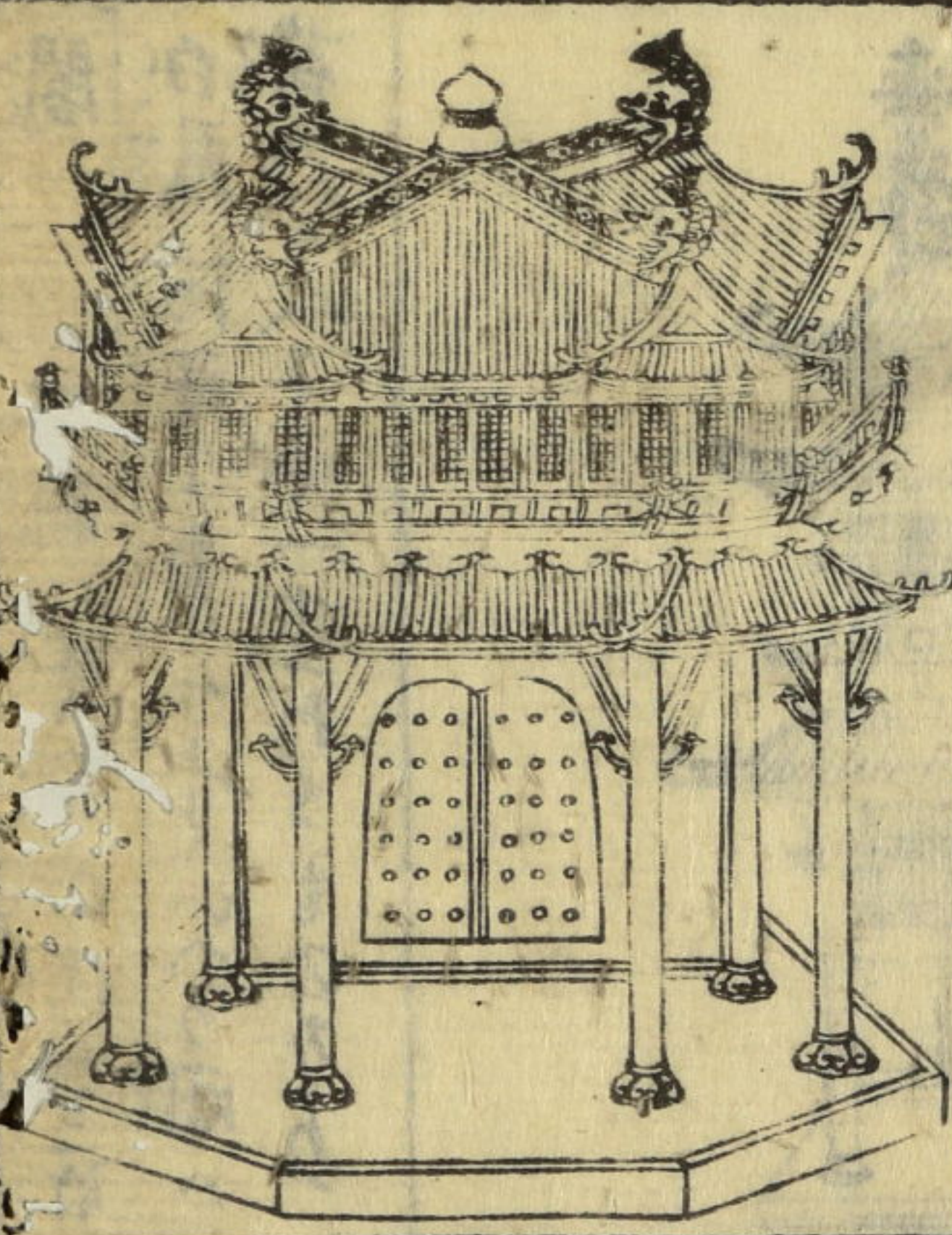
唐土訓蒙圖彙卷之三

名の下に
和名と附

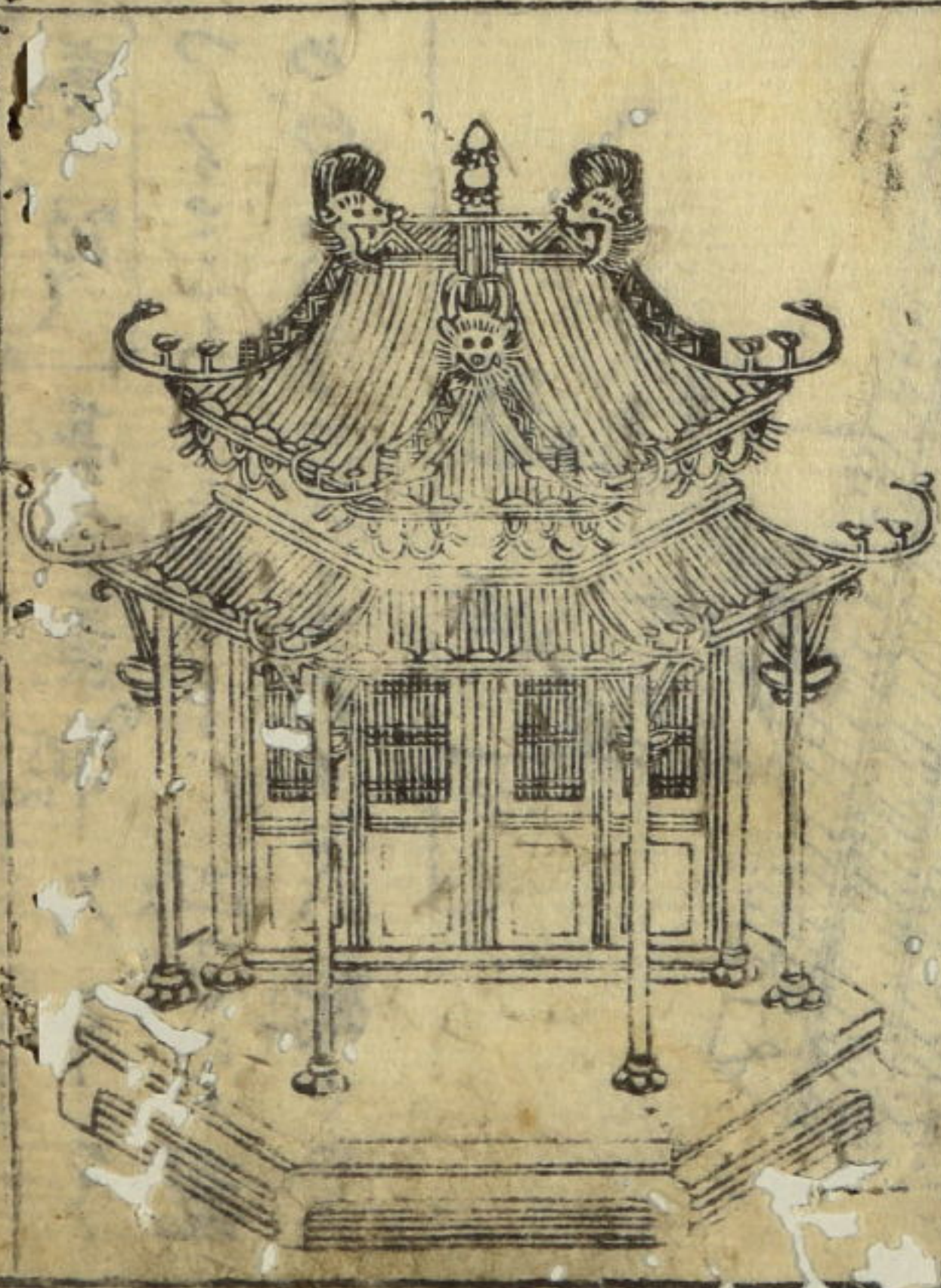
宮室

易曰一壯習上古穴居而野處後世聖人易之以宮室此郊之也天子之文より下長岡の村居きて

宮 宮の中間に處すかかるとりくくりなり



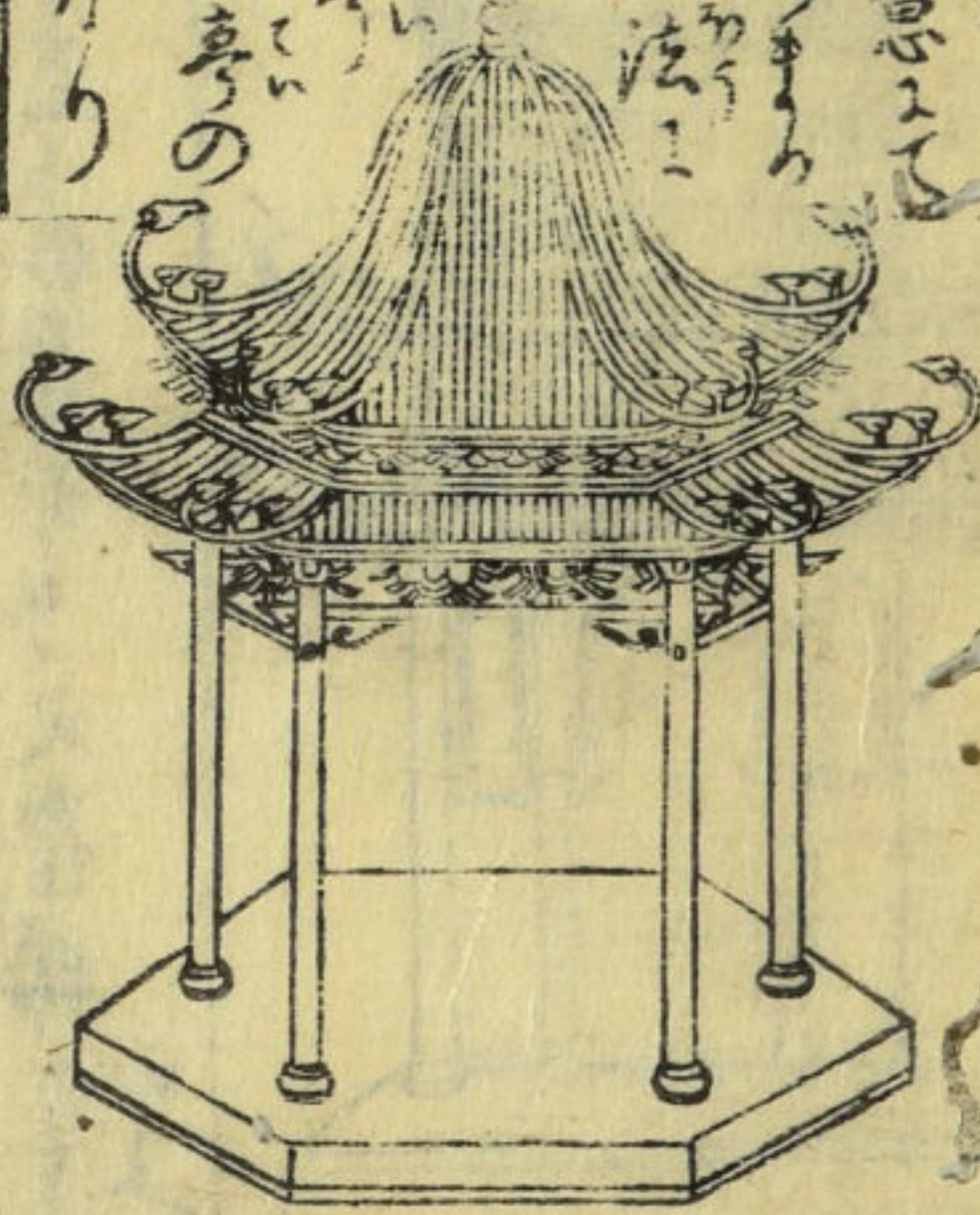
殿 殿の屋とがうふ義



格丹の

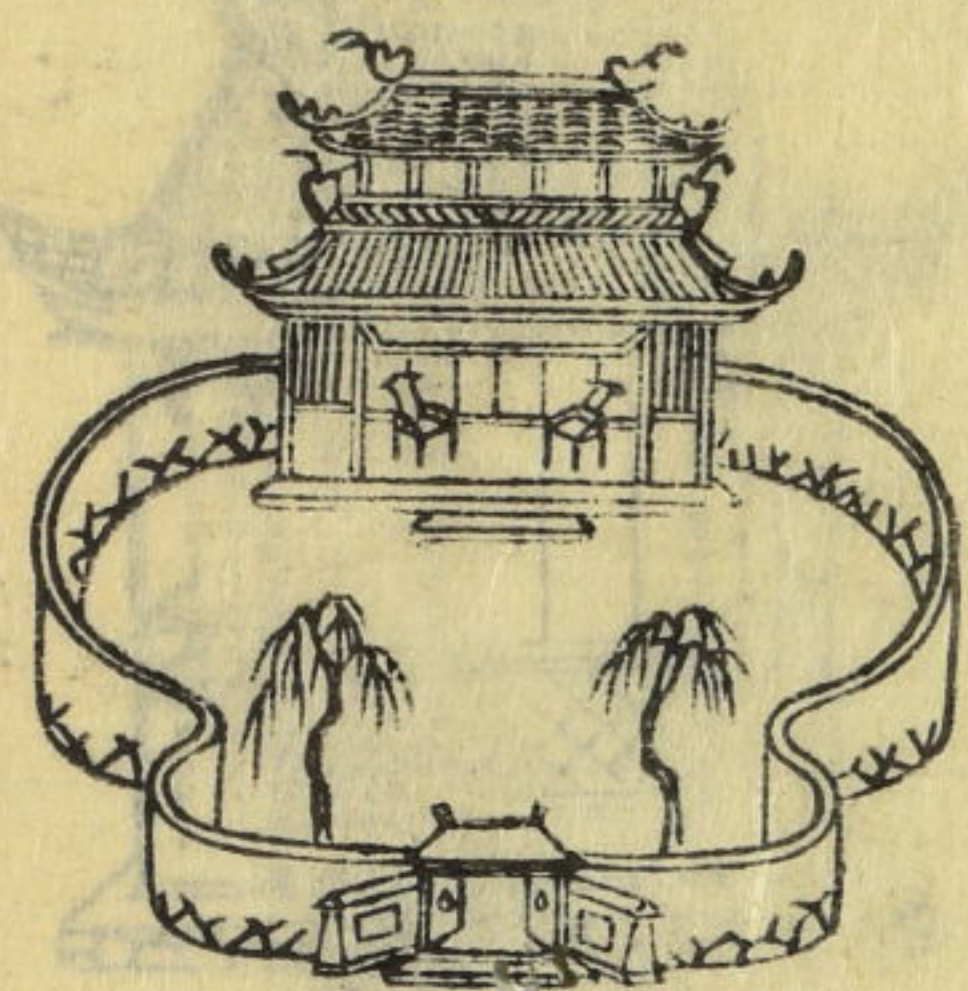
亭

亭の字の意は
をゆりあつまる
不之秦の法
十里
あり
長しゆなり



館

舎なり他國
賓使
りて
りつ
舎なり

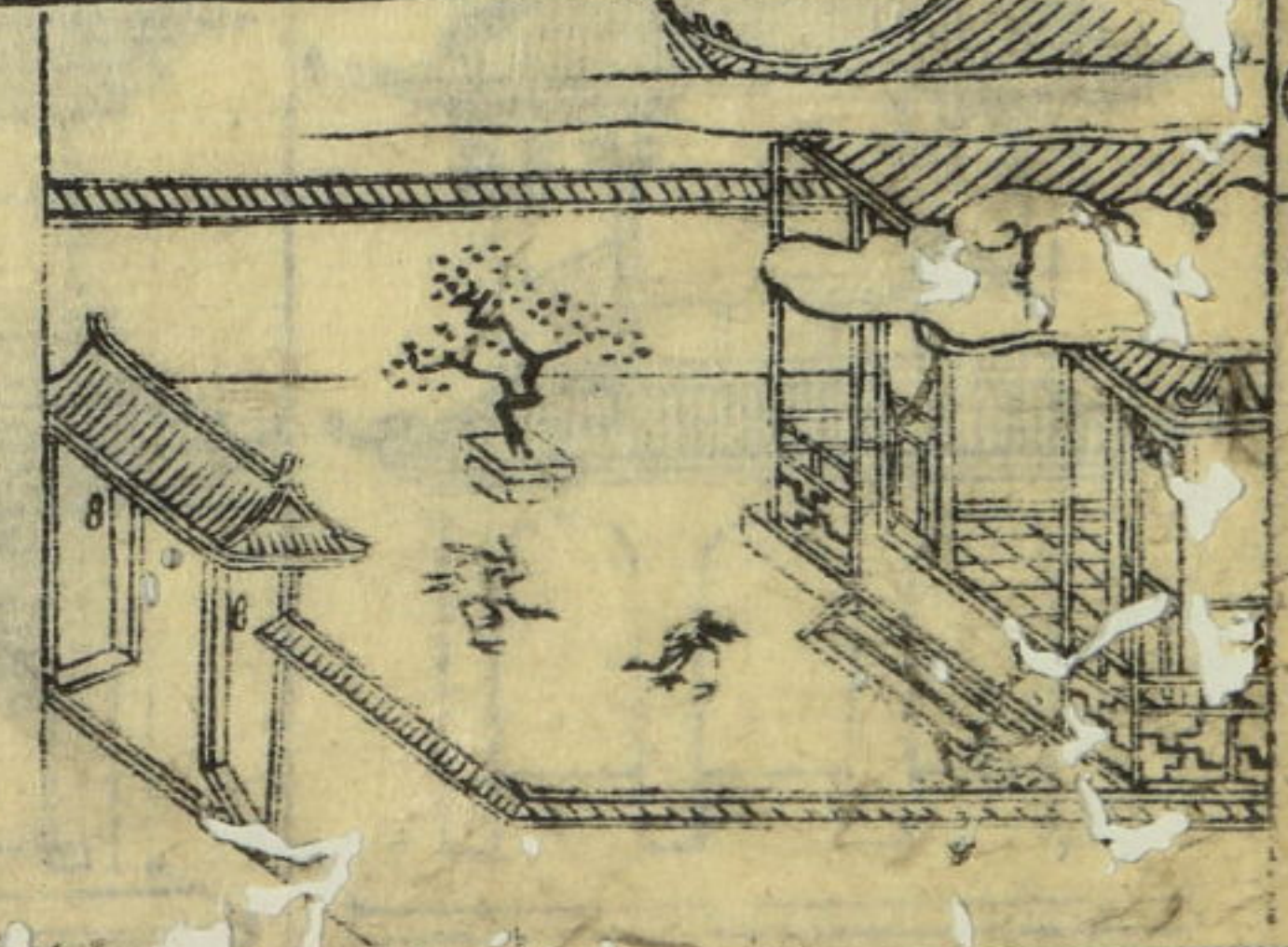


庭

門
間
黃帝大庭の
館
庭の若英帝

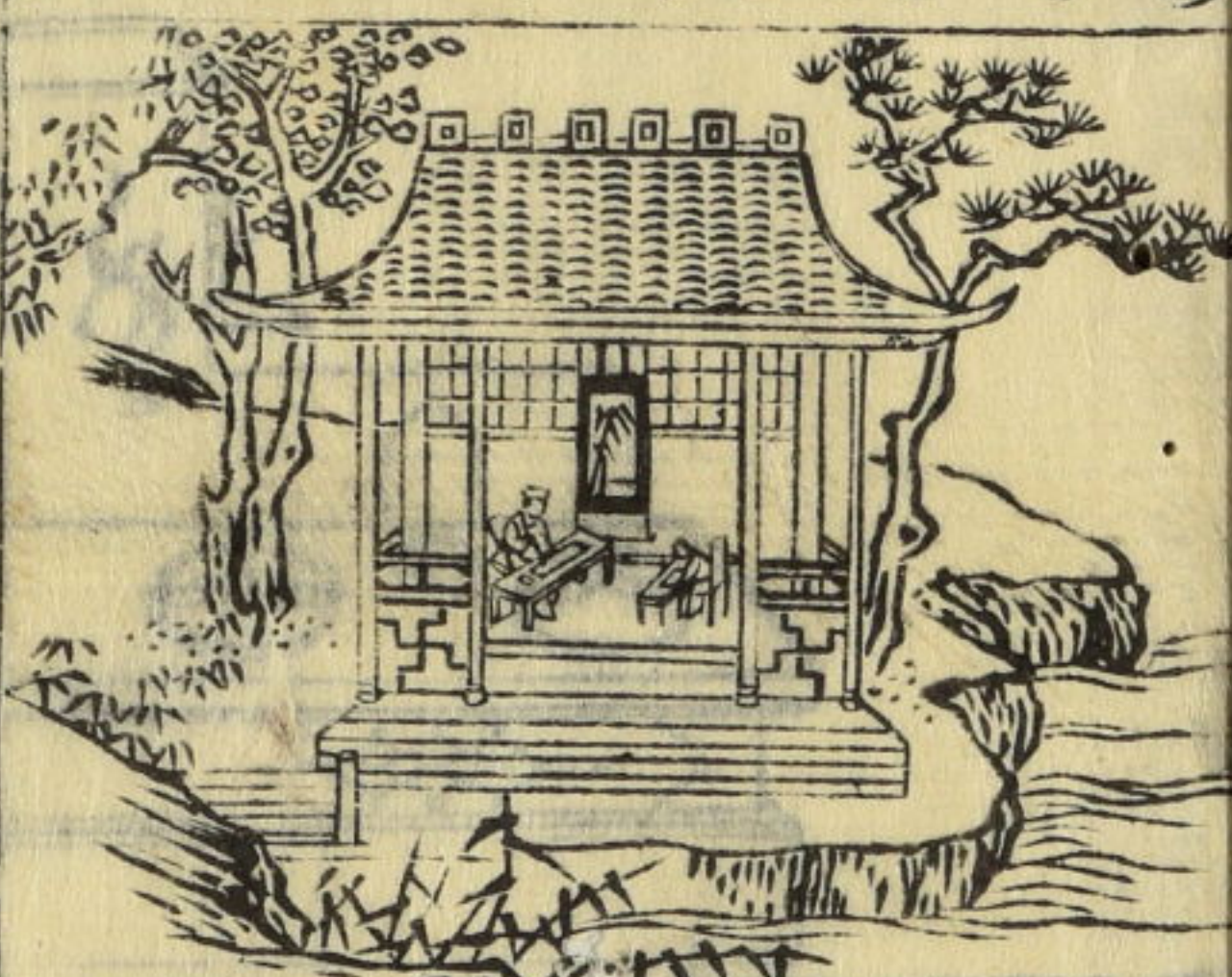
宅

孟子
五畝の宅
りて
宅の
は



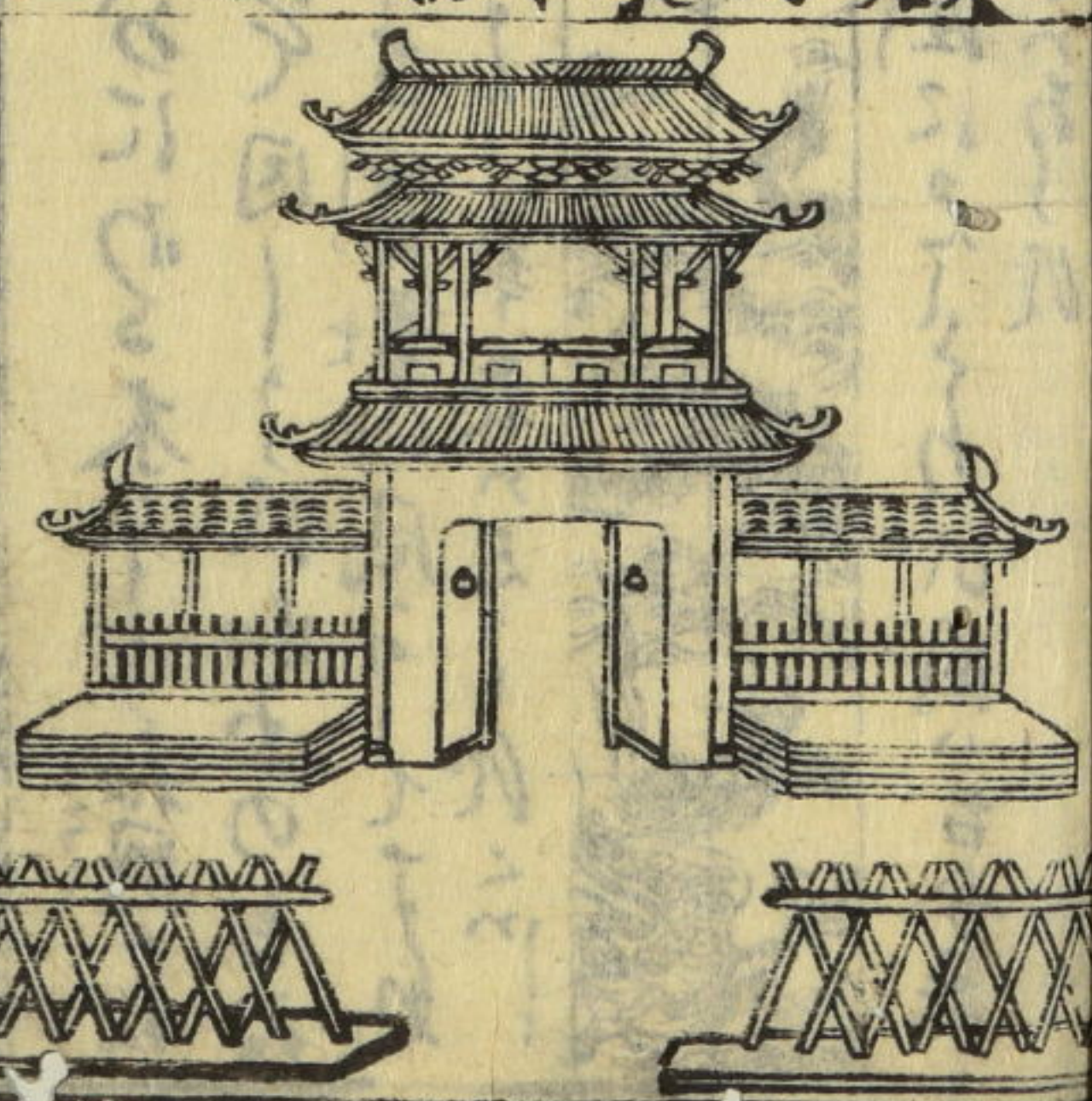
齋

宣帝齋居と
事と
此名あり
後一殿仲堪
池の
屋と
所



廡

百官の居
所と
りて
官廡
府と



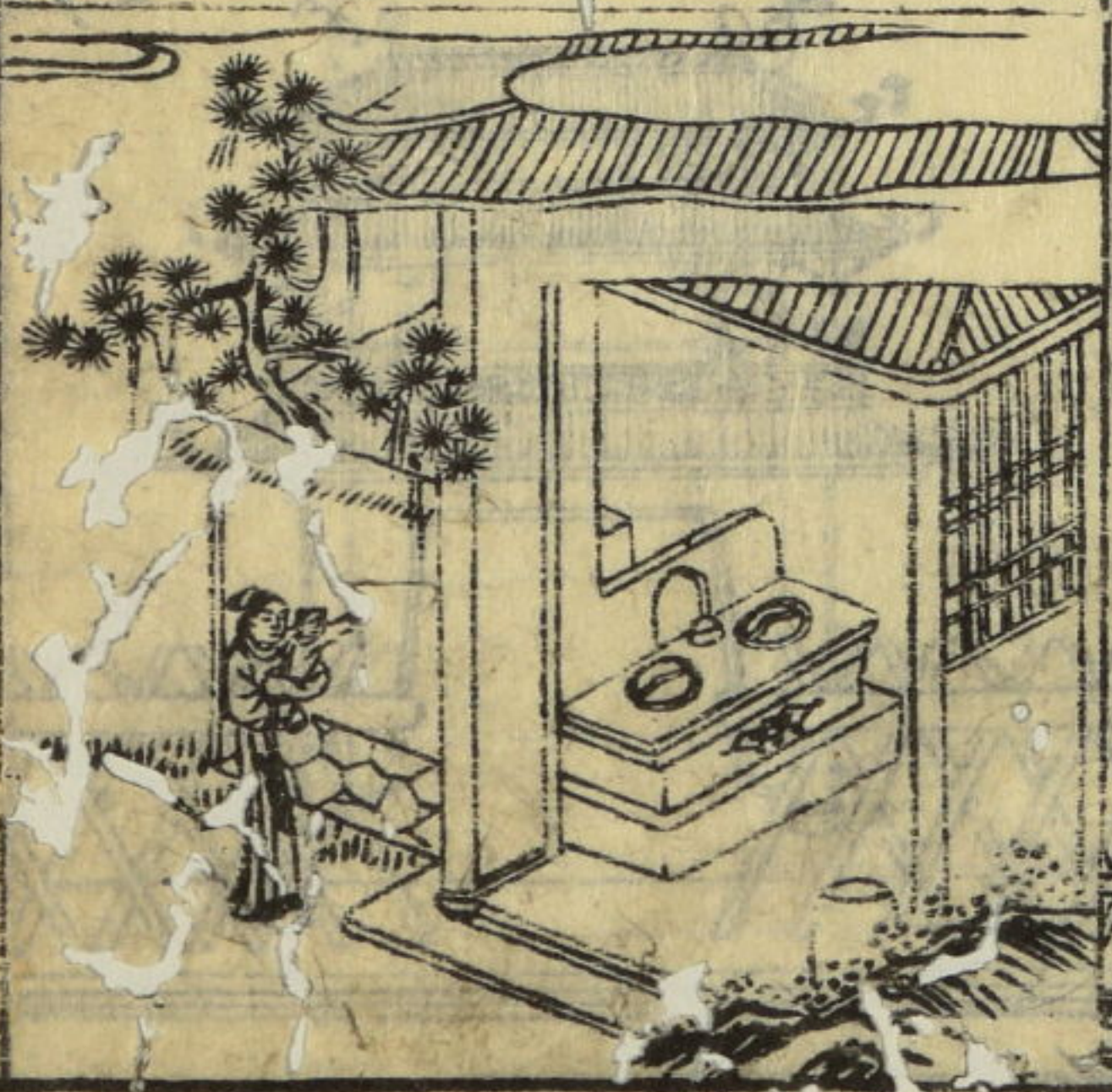
堵

時
人
と
と
版
安堵
大記

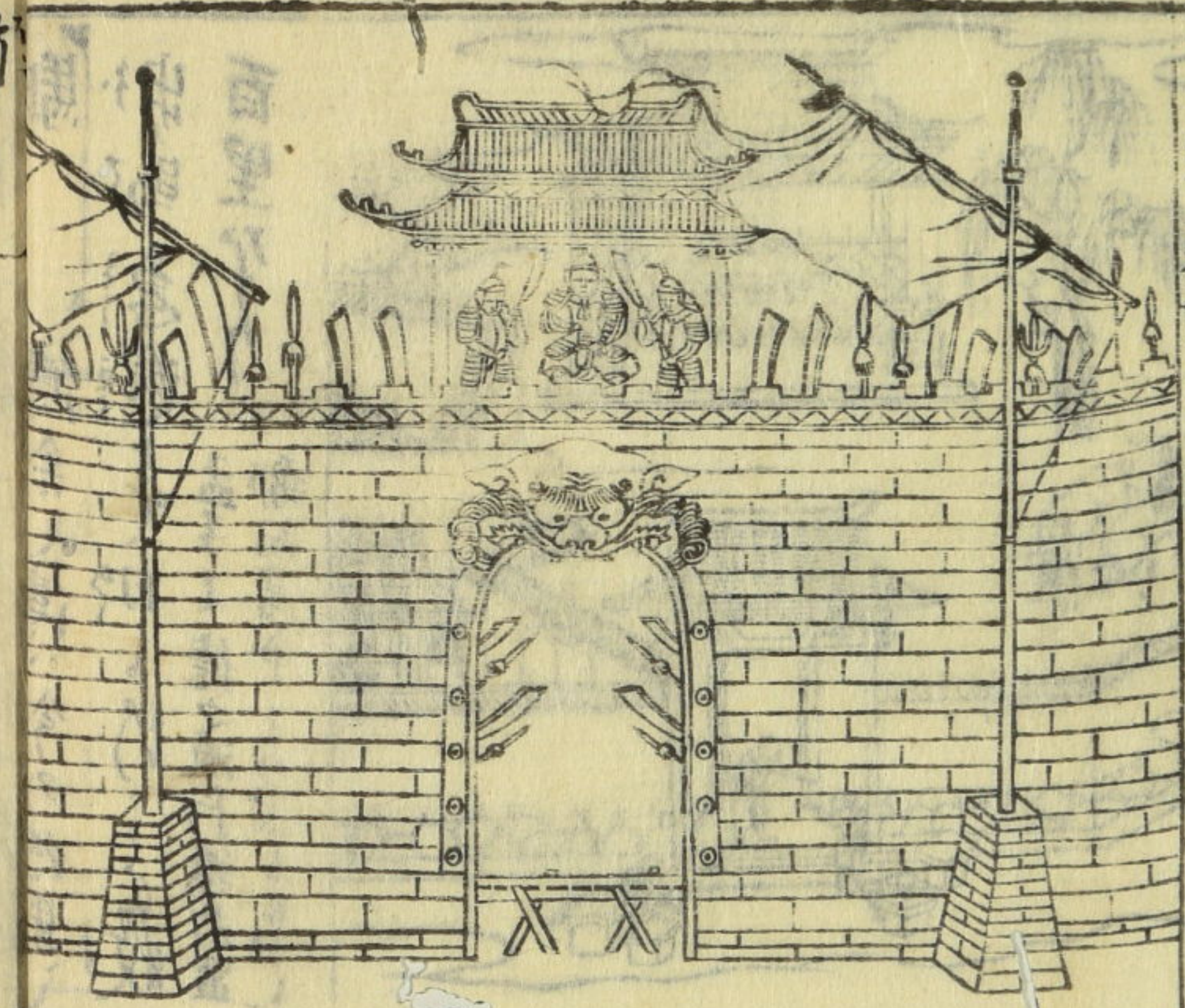


廡

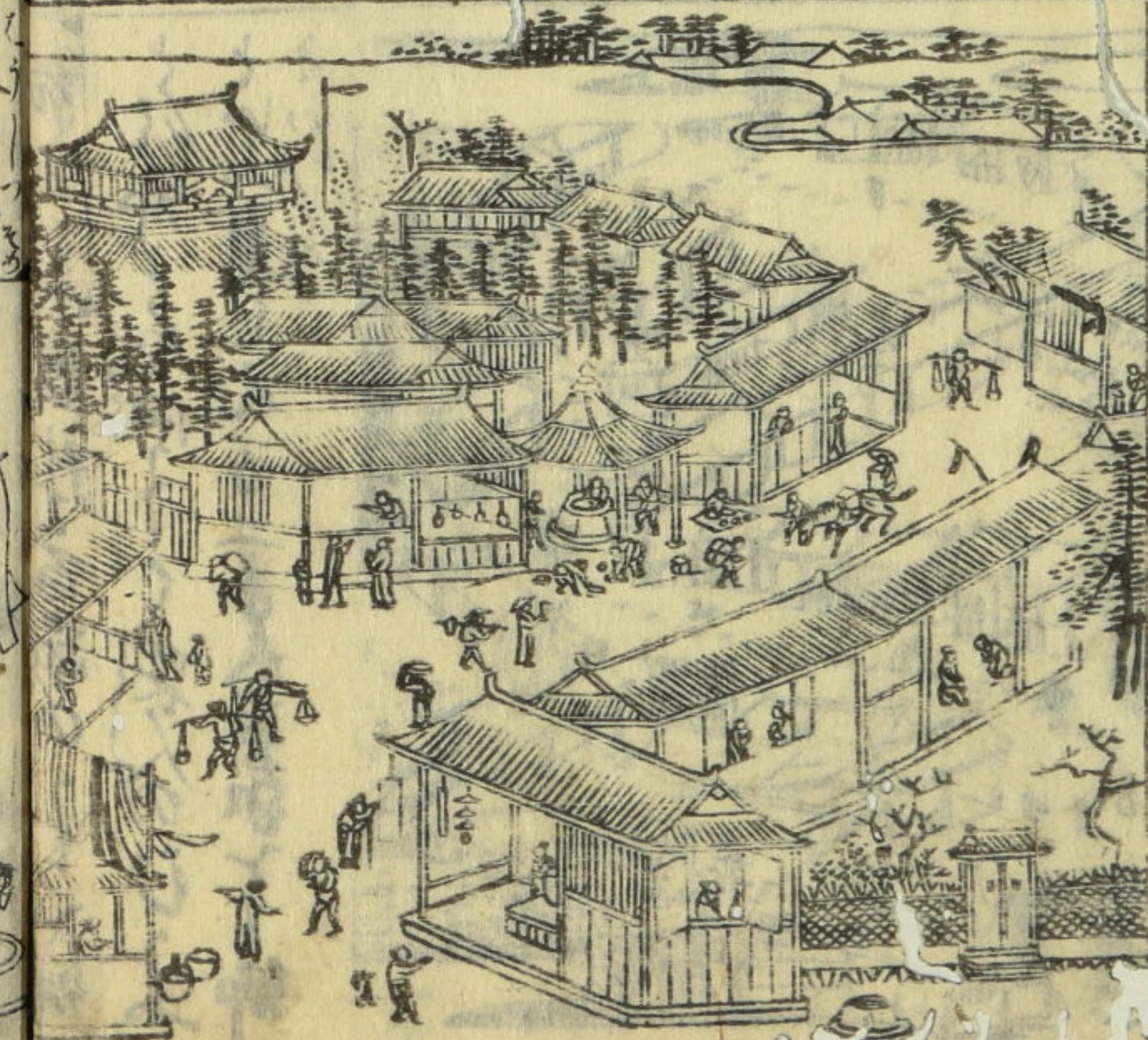
義始
隊
儀性
供



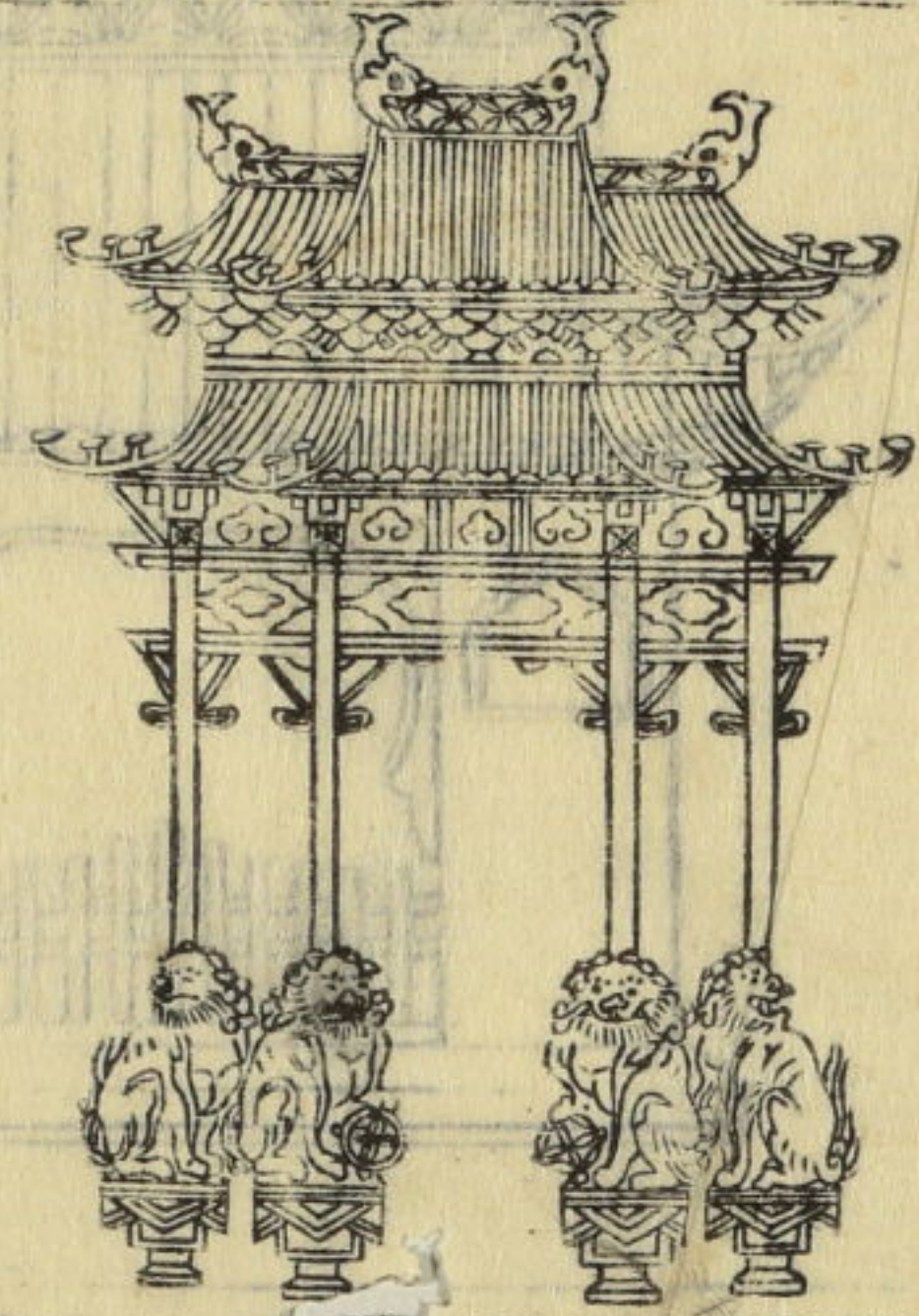
關東の國ハ知つと云々
 非常と云々
 〇塞ノ和訓コレキトヨムナリ



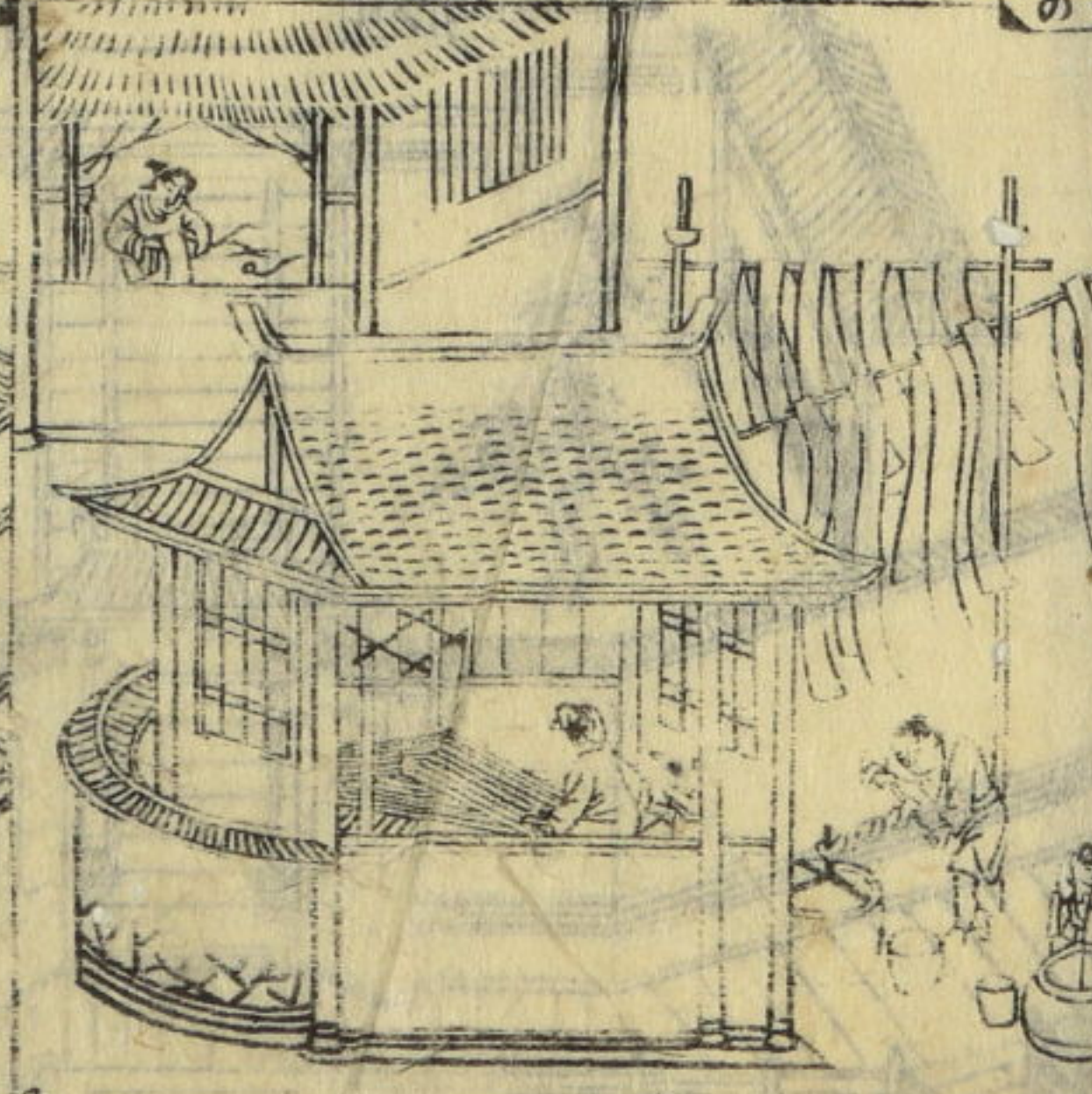
皇都の興のうら
 此の地或は...
 故に...
 浦の...
 故に...



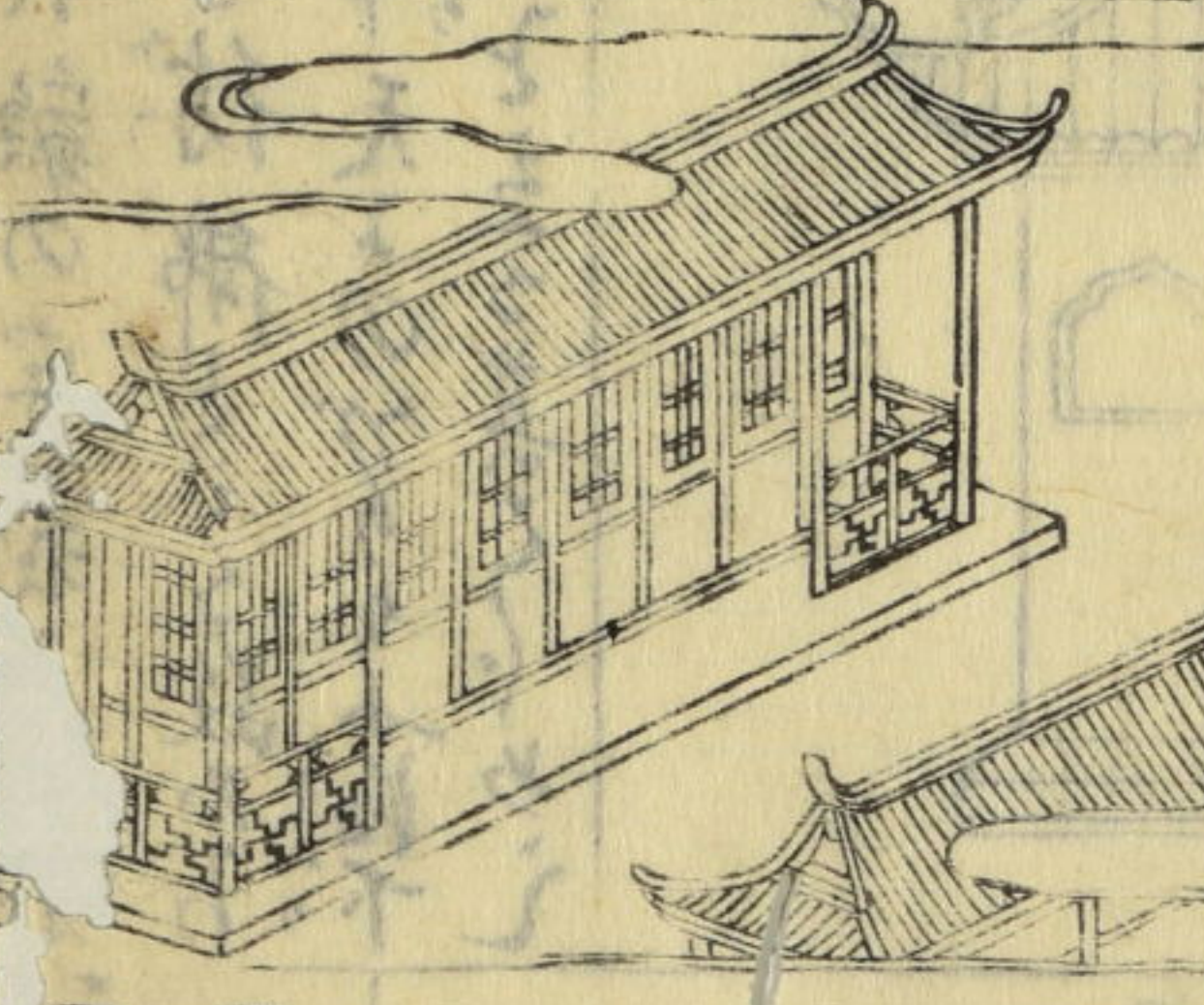
坊ハ方
 と云々
 文廟乃
 居漢の
 時々々



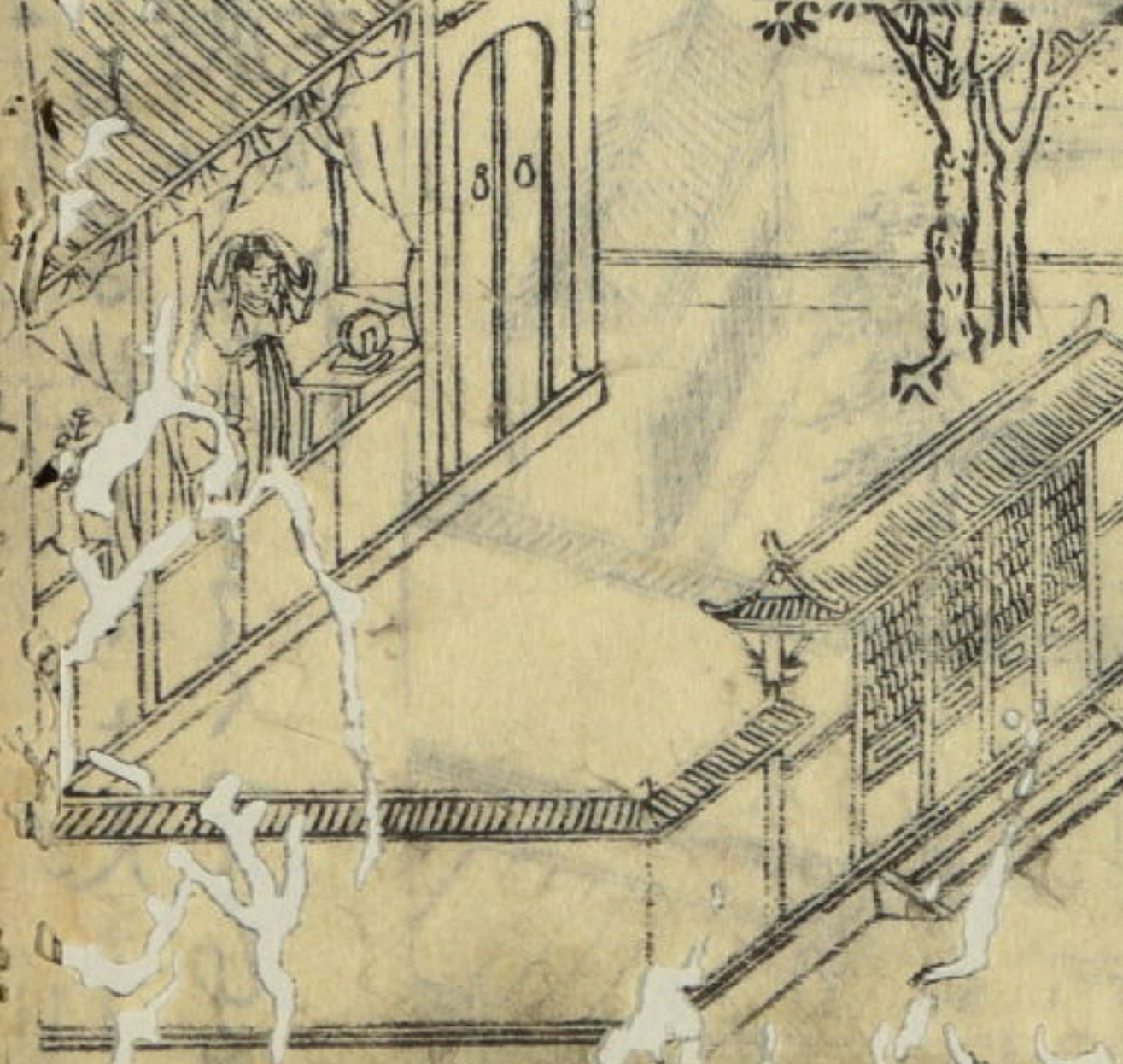
皇水室
 宮中乃
 織物
 際練を
 つまみ
 石と云々



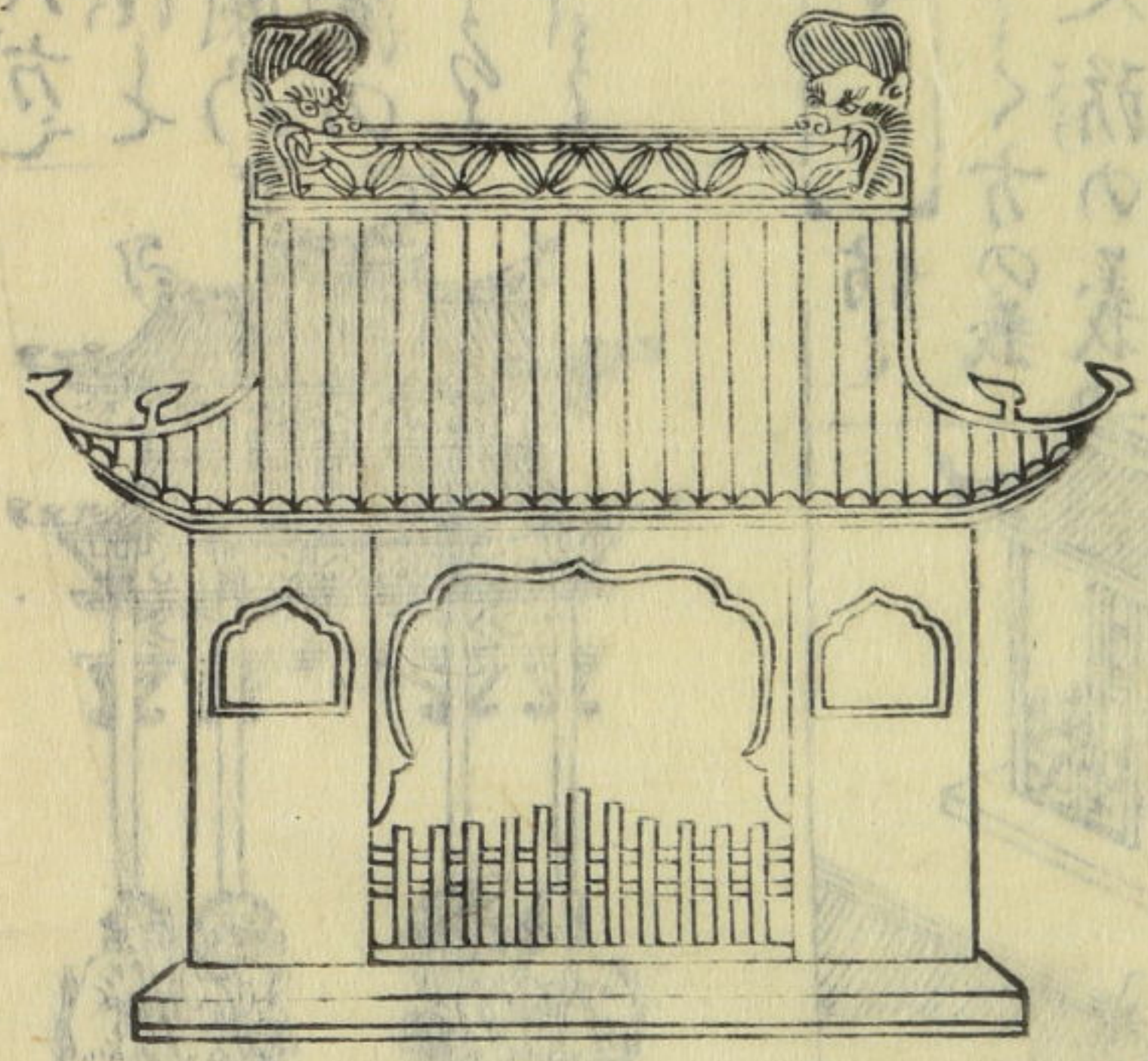
房
 同く方
 の義
 こ又防
 の義
 不て風
 雨燥
 湿と防
 ぐ也
 宮室の制
 夫と心
 左右を
 房と云々



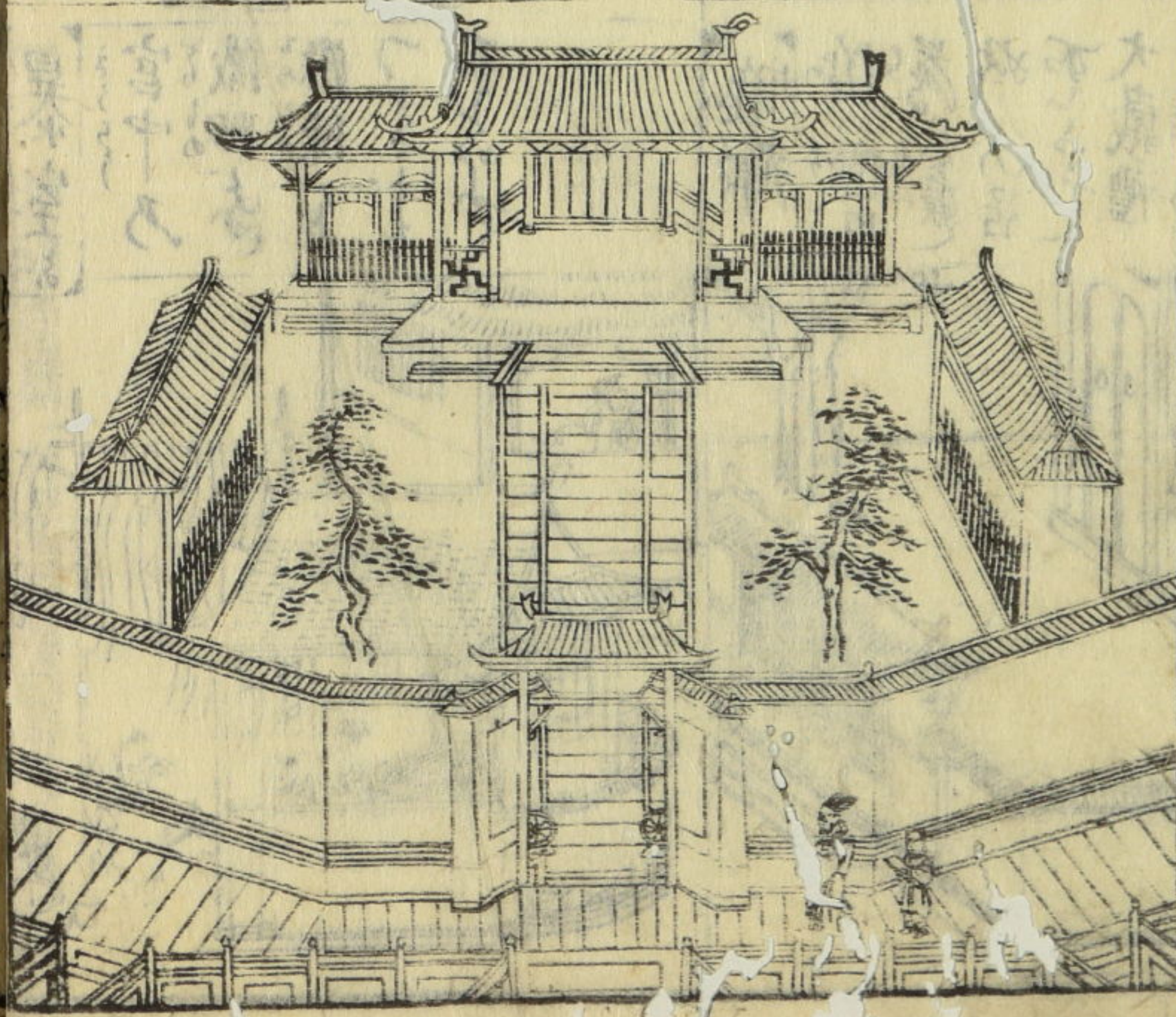
惟薄
 惟ハ慢
 也
 爲ハ
 居
 大戴禮
 不修
 不修
 不修



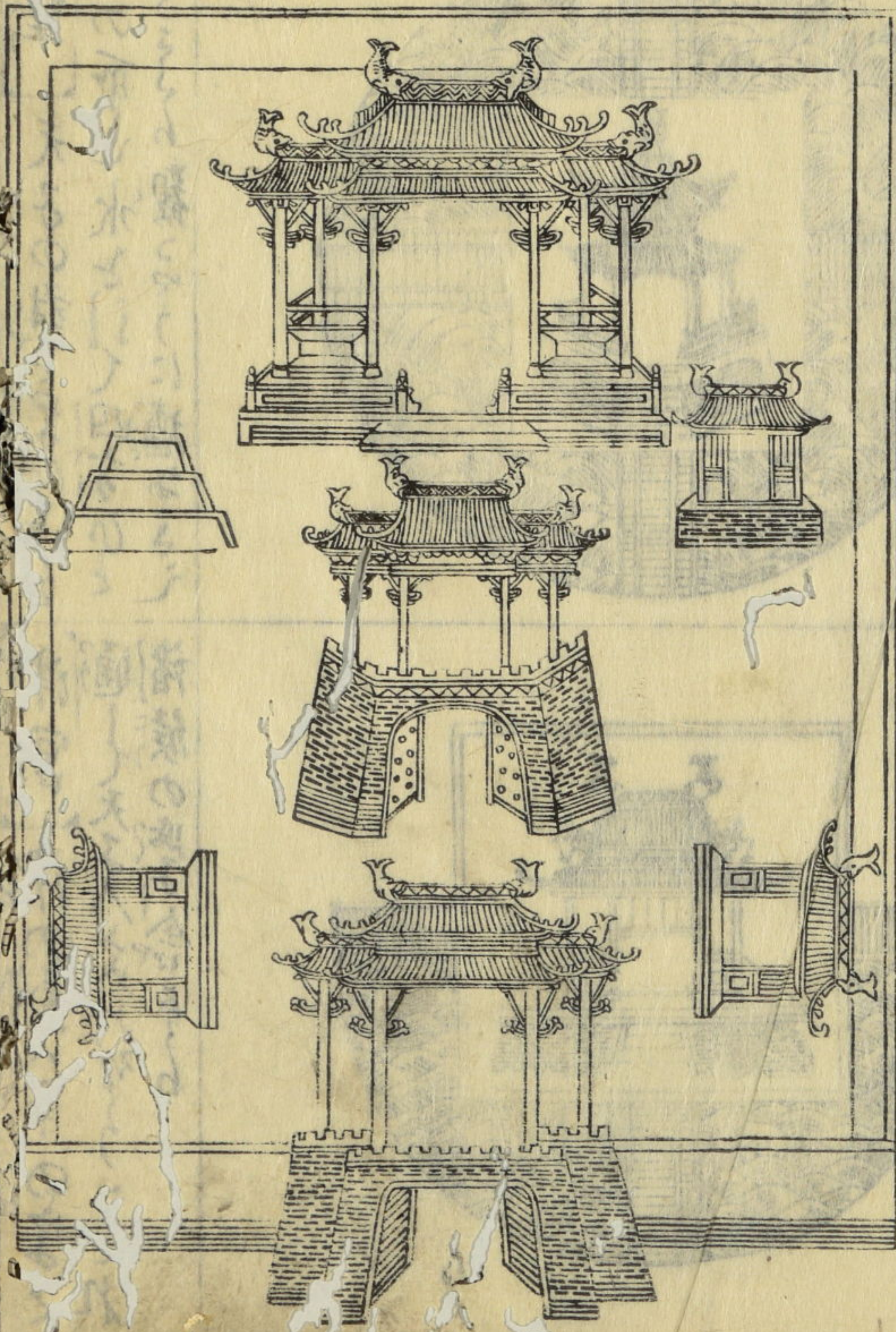
廟の靈貌を彷彿とせしむる故なり
 遊藝とて其の門を天子の門とせしむる



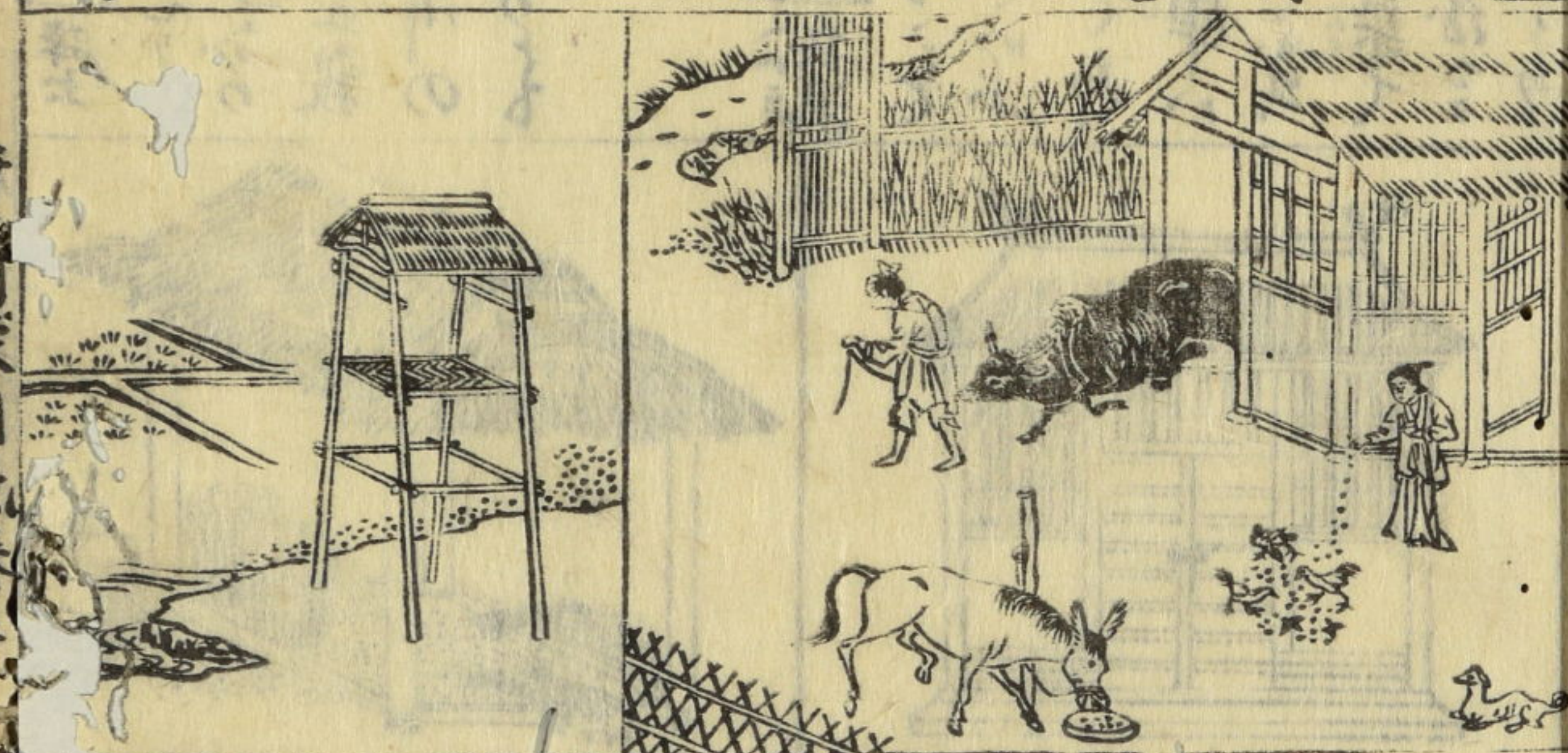
廟の靈貌を彷彿とせしむる故なり
 遊藝とて其の門を天子の門とせしむる



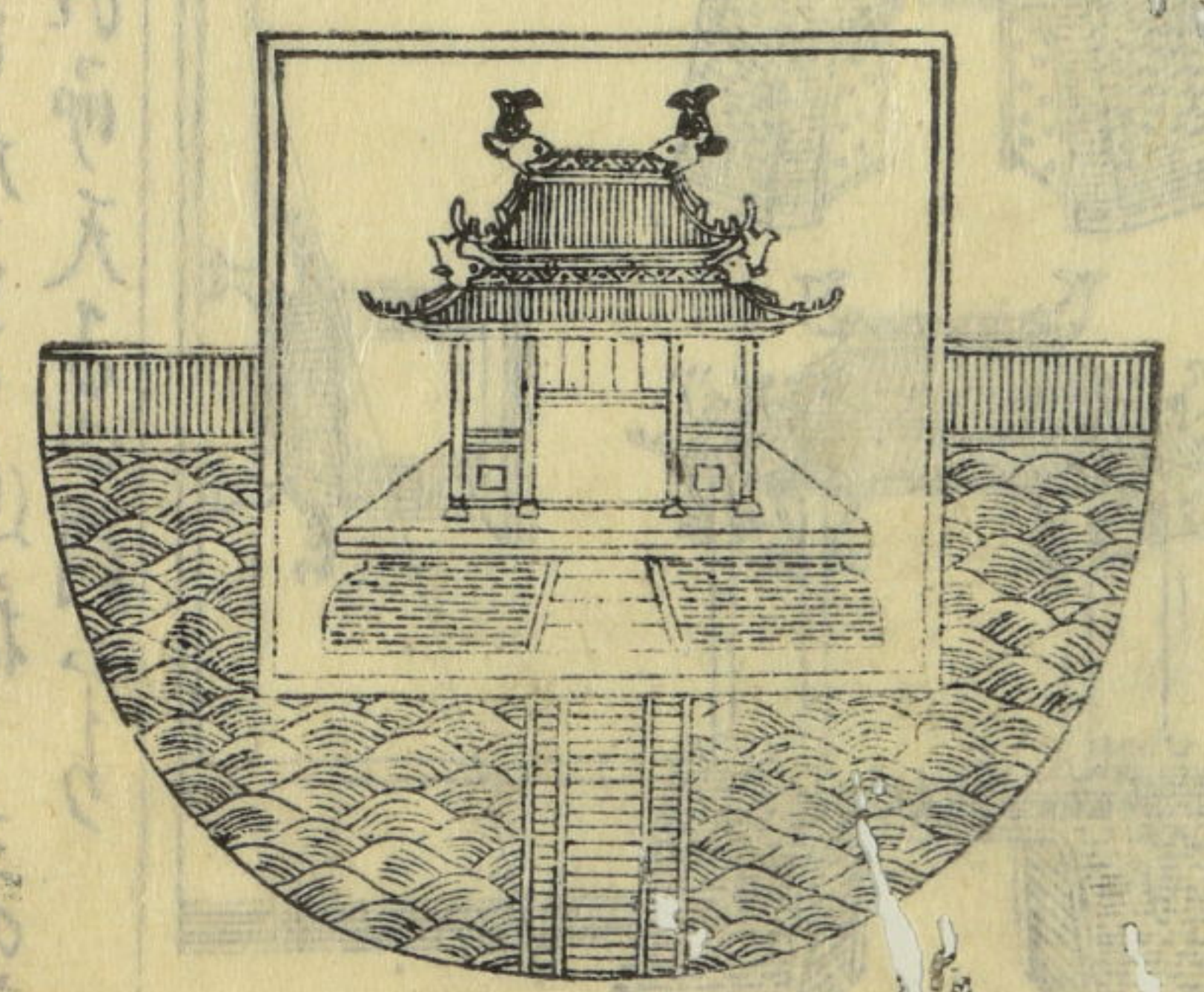
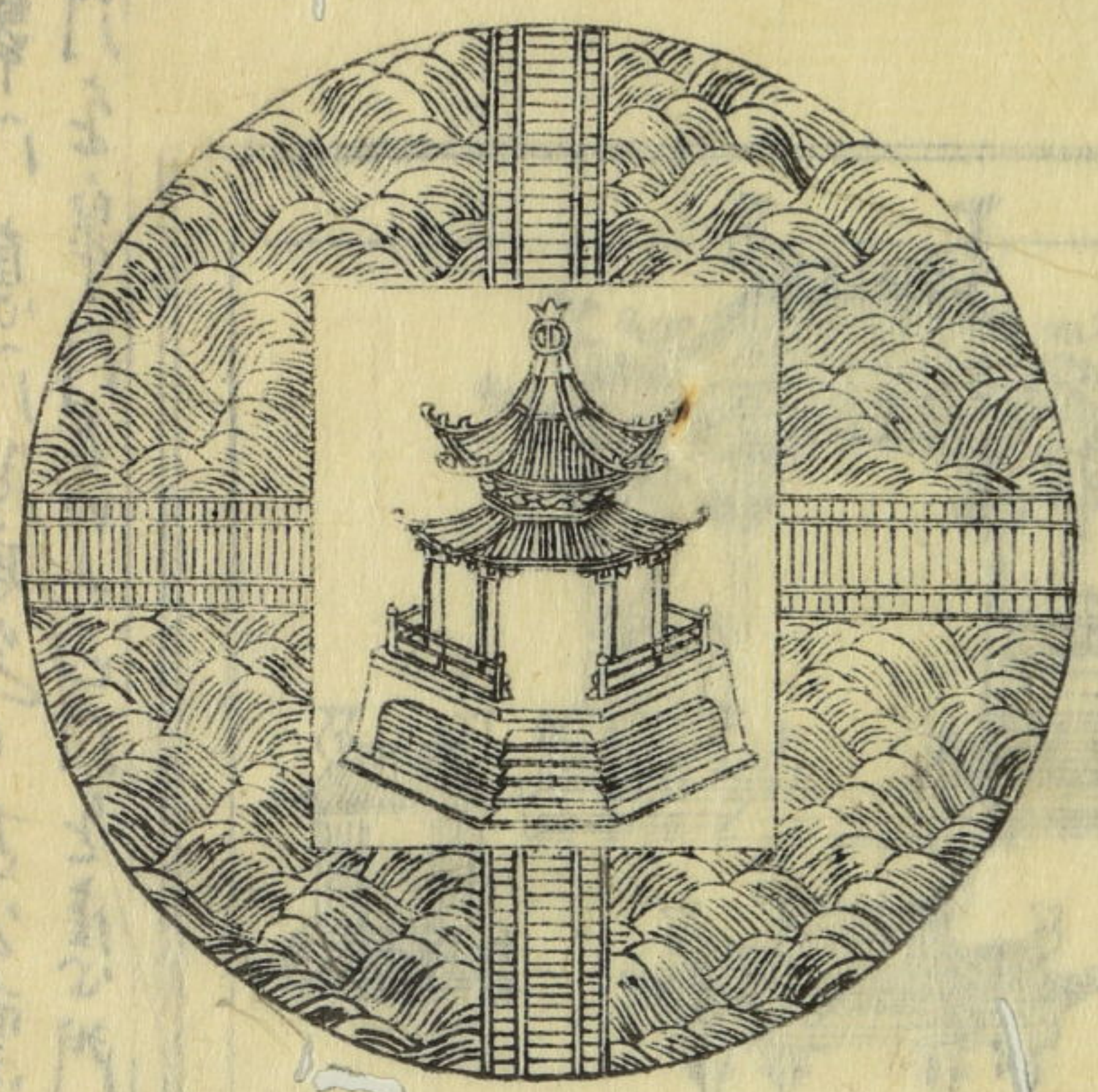
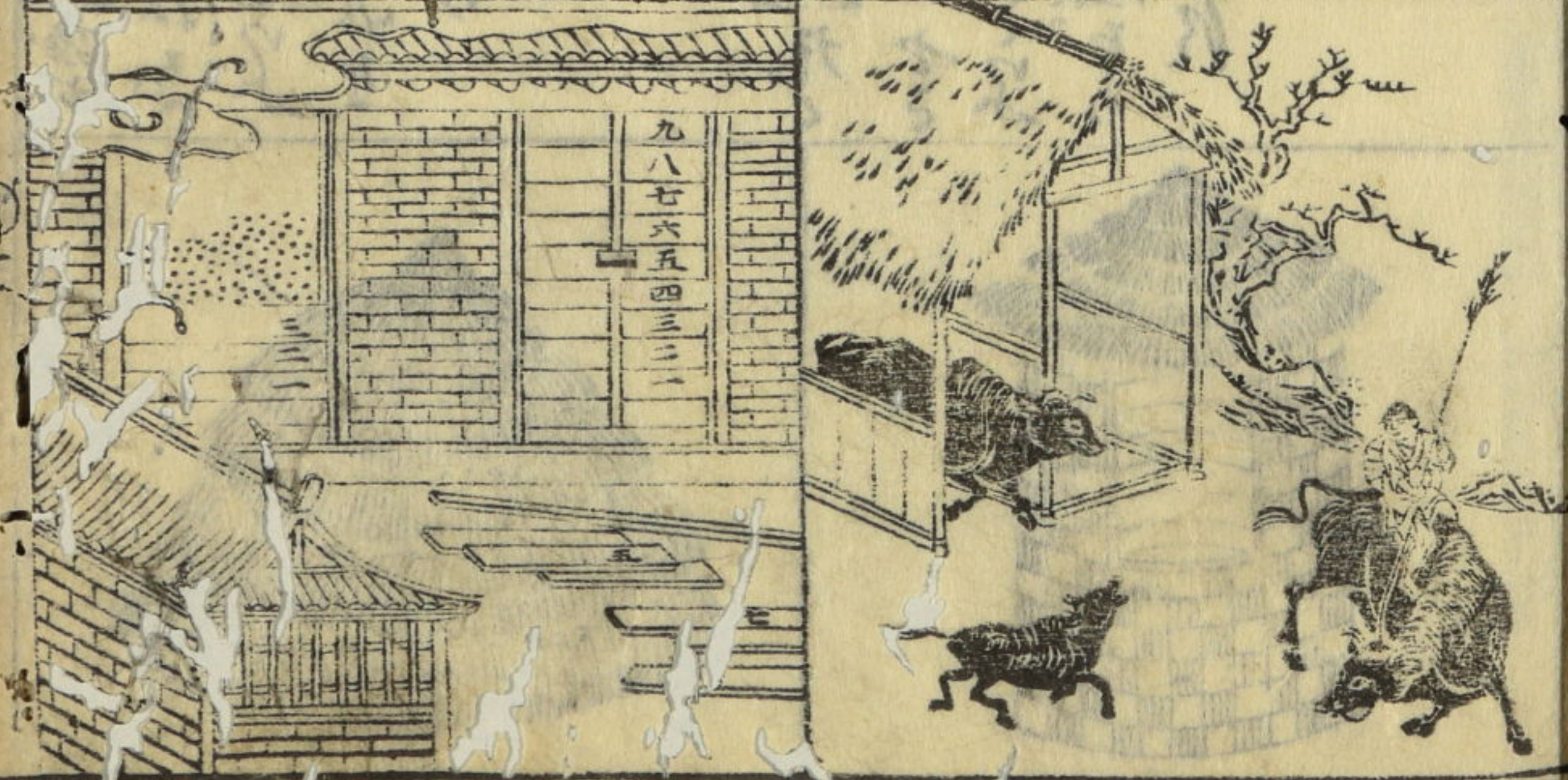
阜門 應門
 阜門 應門と建つる古公稟父のら大王と遊藝とて其の門を天子の門とせしむる



田廬の
民の家
牛の飼
羊の飼
倉の
守舎
田圃
小屋
水
池
山



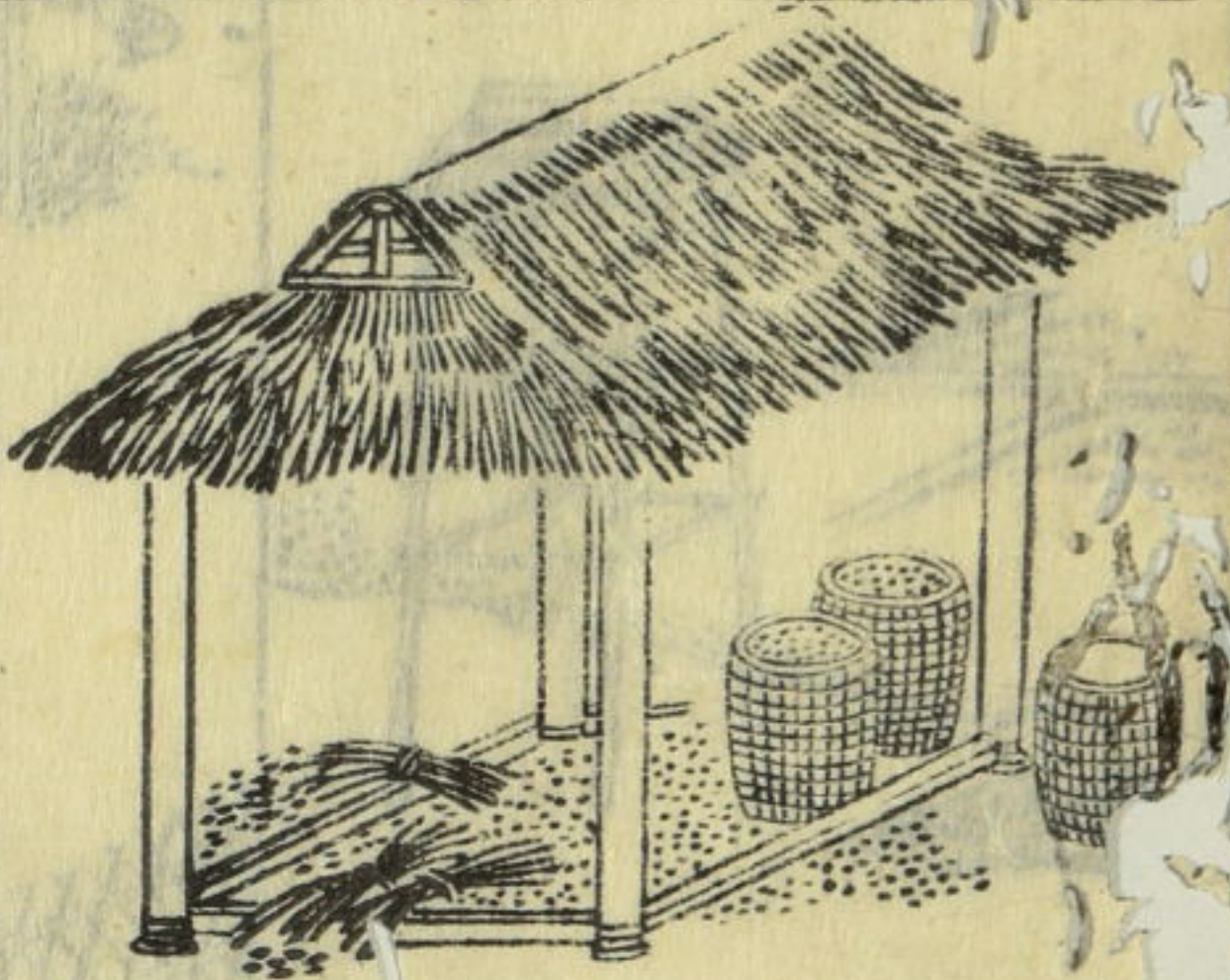
牛室
五穀
倉
山
池
水
田圃
小屋
民の家
田廬



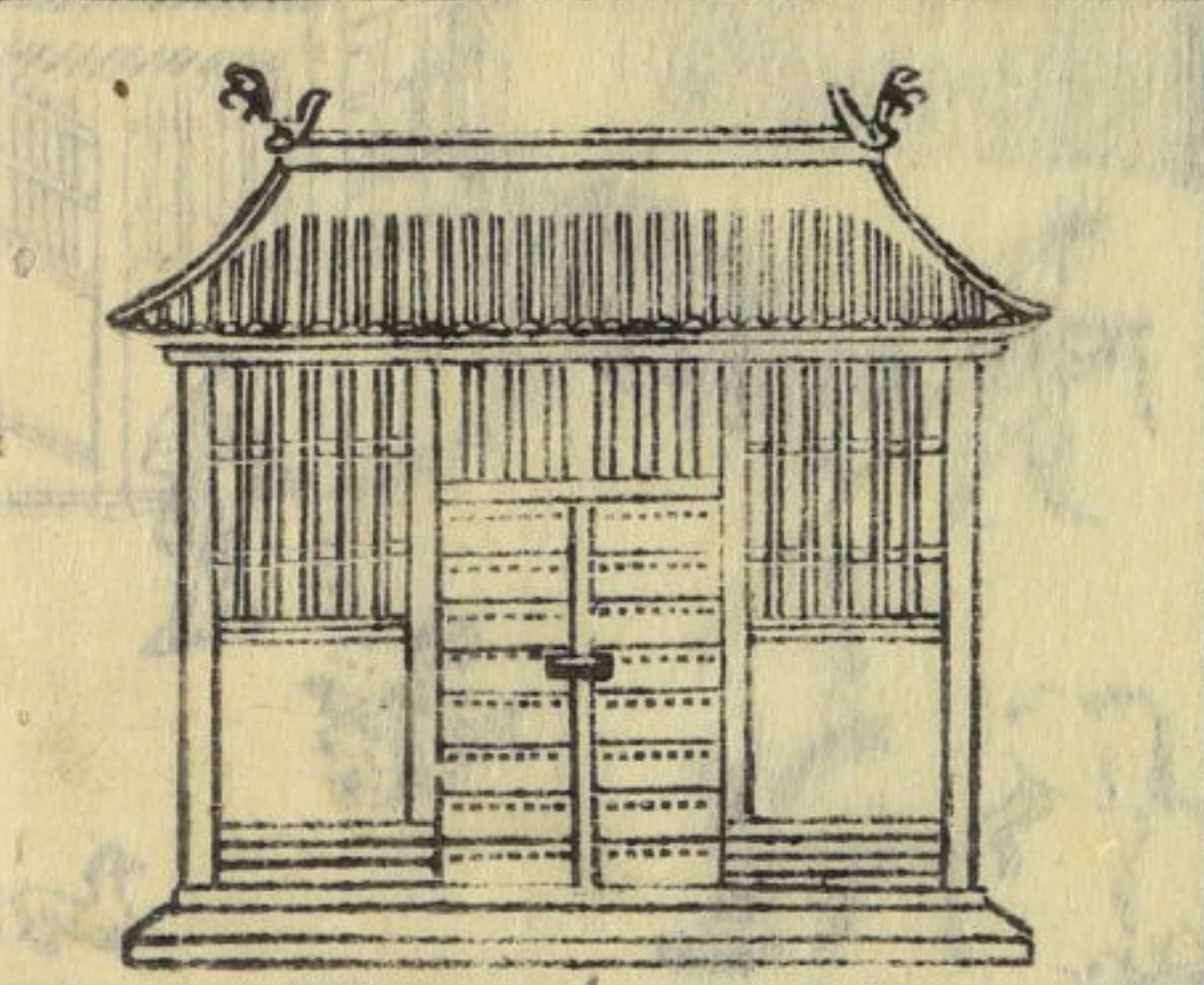
天子の狩
氷
観
池
水
田圃
小屋
民の家
田廬

津宮
天子
倉
池
水
田圃
小屋
民の家
田廬

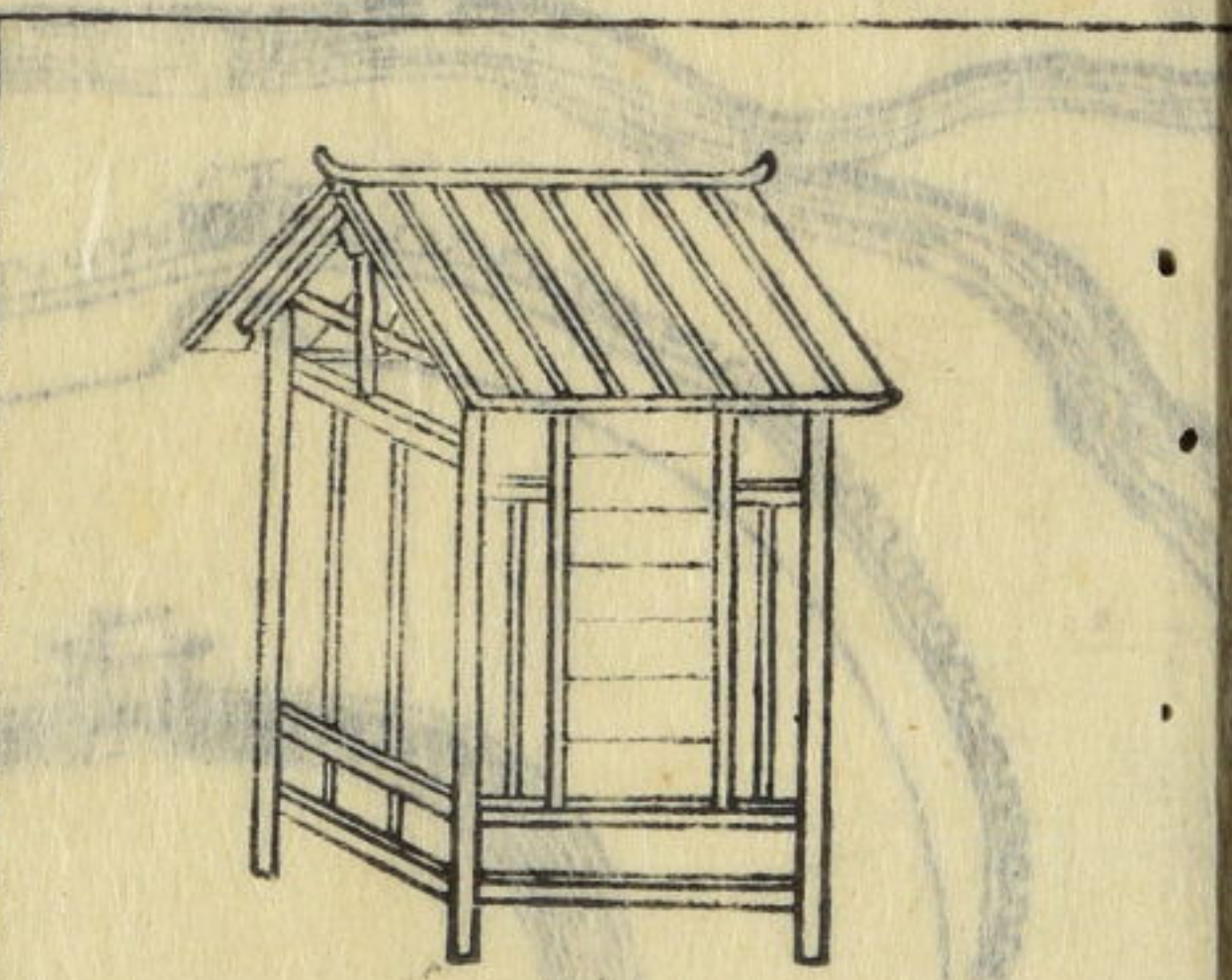
庫くら 兵へい 器き
 金かね 影かげ 糸いと と
 書かき と いふ
 文庫ぶんこ と 庫くら の
 湯武たうぶ の 庫くら
 五庫ごくら と 築つく て
 五兵ごへい と 築つく て
 いへり



庫くら 兵へい 器き
 金かね 影かげ 糸いと と
 書かき と いふ
 文庫ぶんこ と 庫くら の
 湯武たうぶ の 庫くら
 五庫ごくら と 築つく て
 五兵ごへい と 築つく て
 いへり



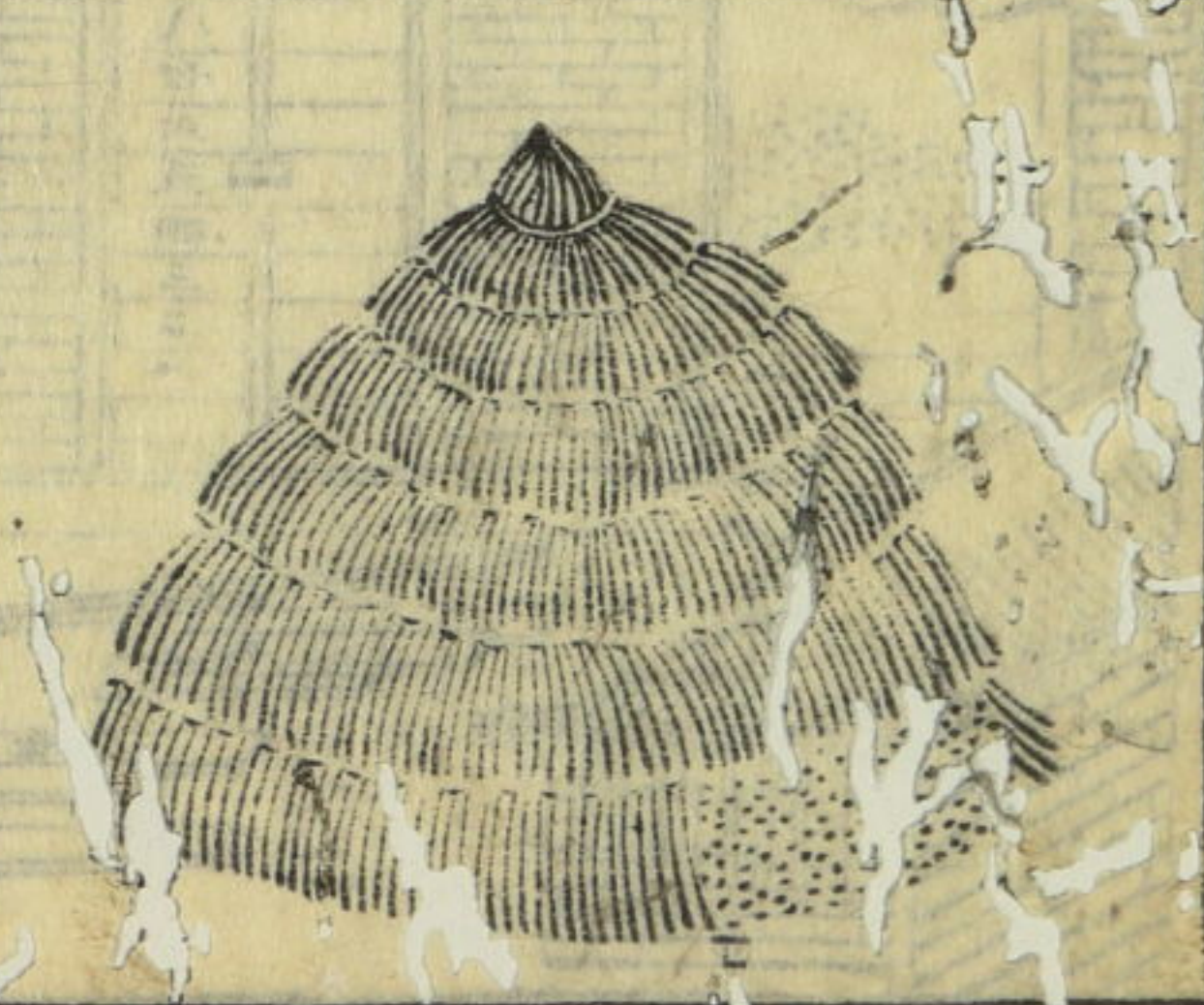
京きやう 方かた
 けりかとよふ又
 原はら の 字あざ 牙が 々々
 京きやう の 高たか 大だい 乃の
 義ぎ と のり
 いへり



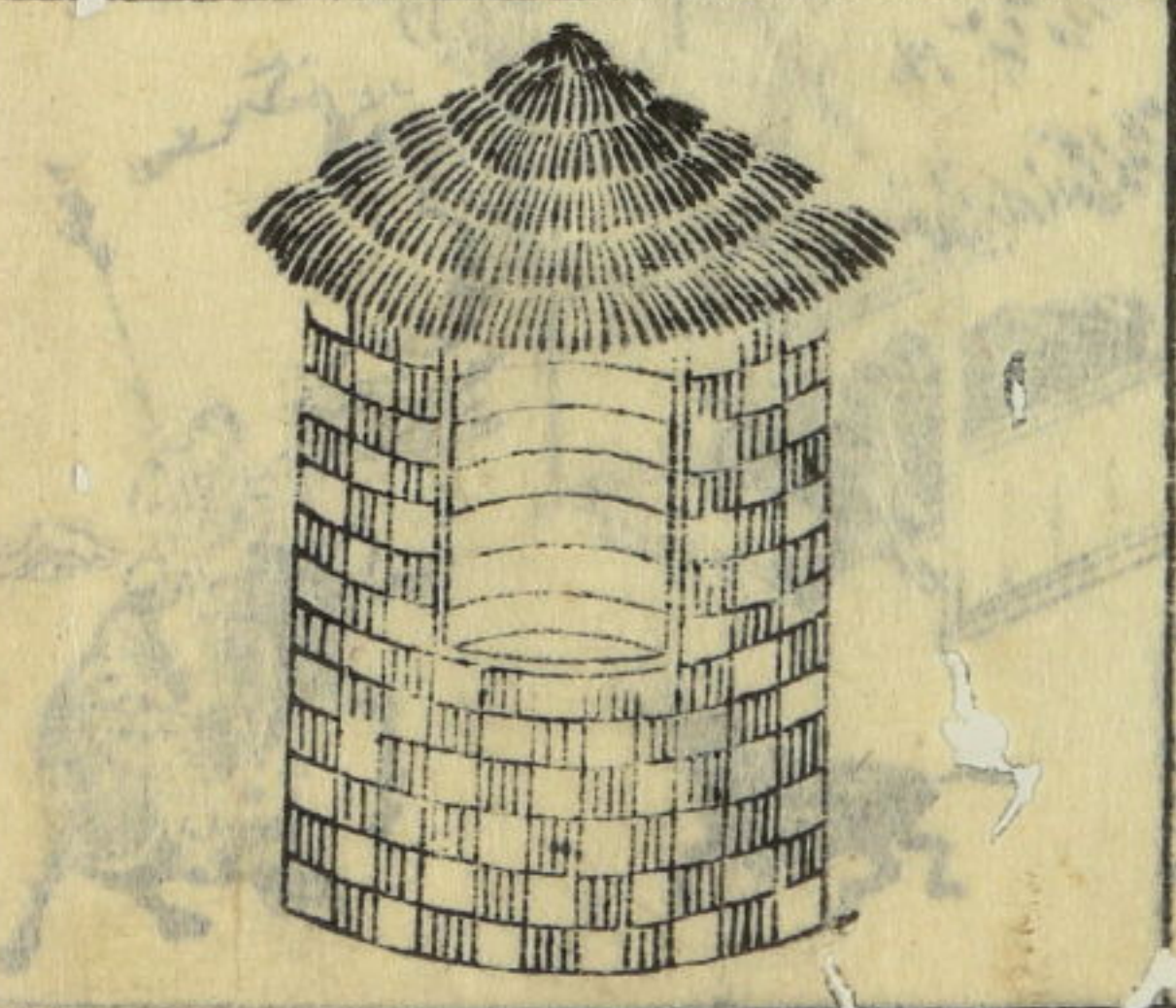
賣うり 物もの 倉くら
 小こ 腹はら 大だい
 と 穿う て 入い り
 空あ け 二に 仰おほ せり



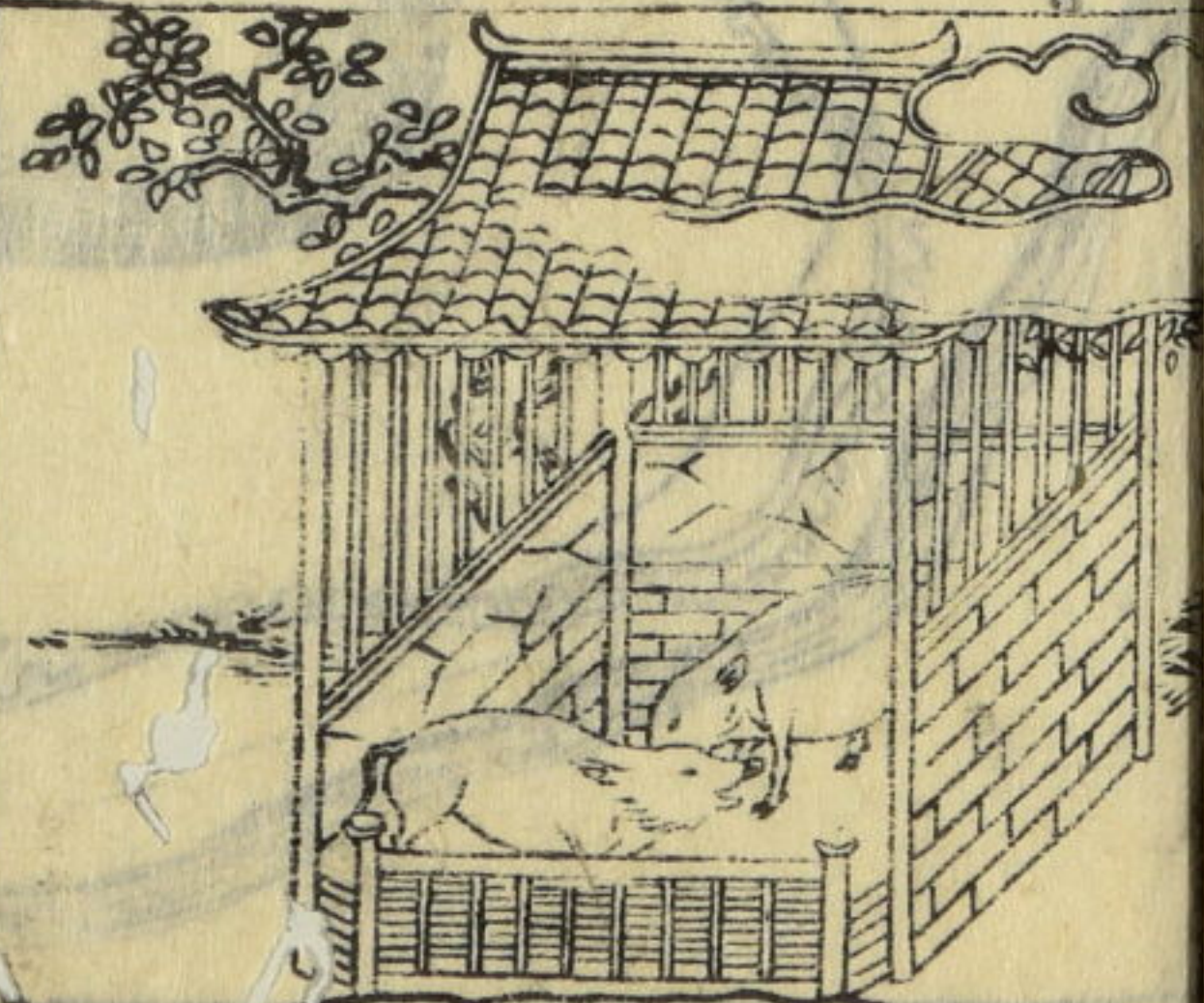
庫くら 兵へい 器き
 なるをねる
 さくらとよ
 いぬのり
 けつたまり



圓まる 丸まる
 建てて花はな ささ
 庫くら の 圓まる 丸まる
 と 殿との と 丸まる



圓まる 牛うし
 糸いと の 糸いと と 糸いと
 と あり と いふ



登のぼ 司し 登のぼ
 司し の 林はやし の 名な
 つり今いま 乃の
 人ひと あやま
 この 名な



郭の

城の介と郭

と云ふは

無と云ふ城と

つらふこれり

守りて君を

衛つて城を

りて城を城

と云ふは

城と云ふは

城と云ふは

城と云ふは

城と云ふは

城と云ふは

城と云ふは

城と云ふは

城と云ふは

城と云ふは

城と云ふは

城と云ふは

城と云ふは

城と云ふは

城と云ふは

城と云ふは

城と云ふは

城と云ふは

城の

城の

城の

城の

城の

城の

城の

城の

城の

城の

城の

城の

城の

城の

城の

城の

城の

城の

城の

城の

城の

城の

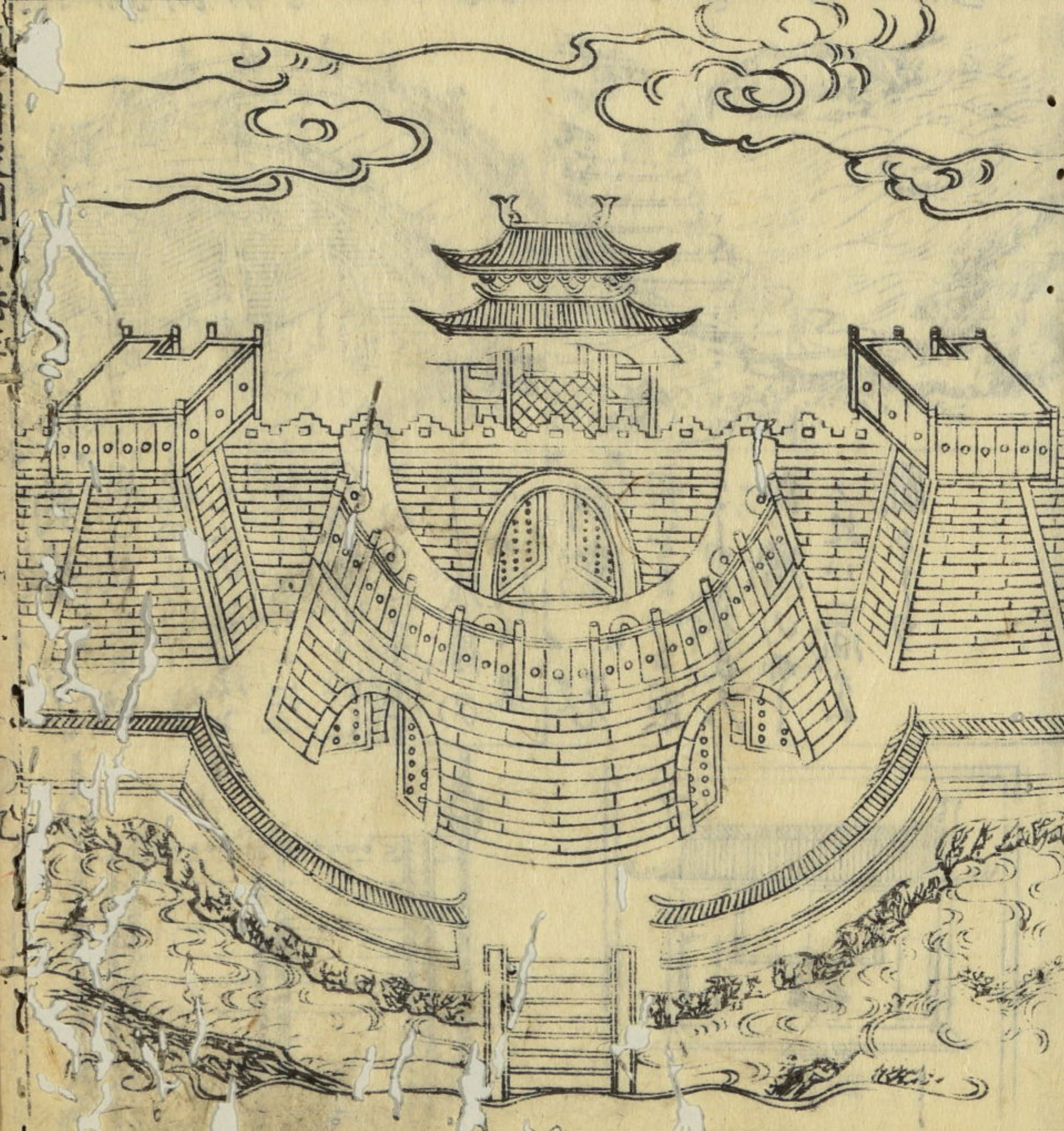
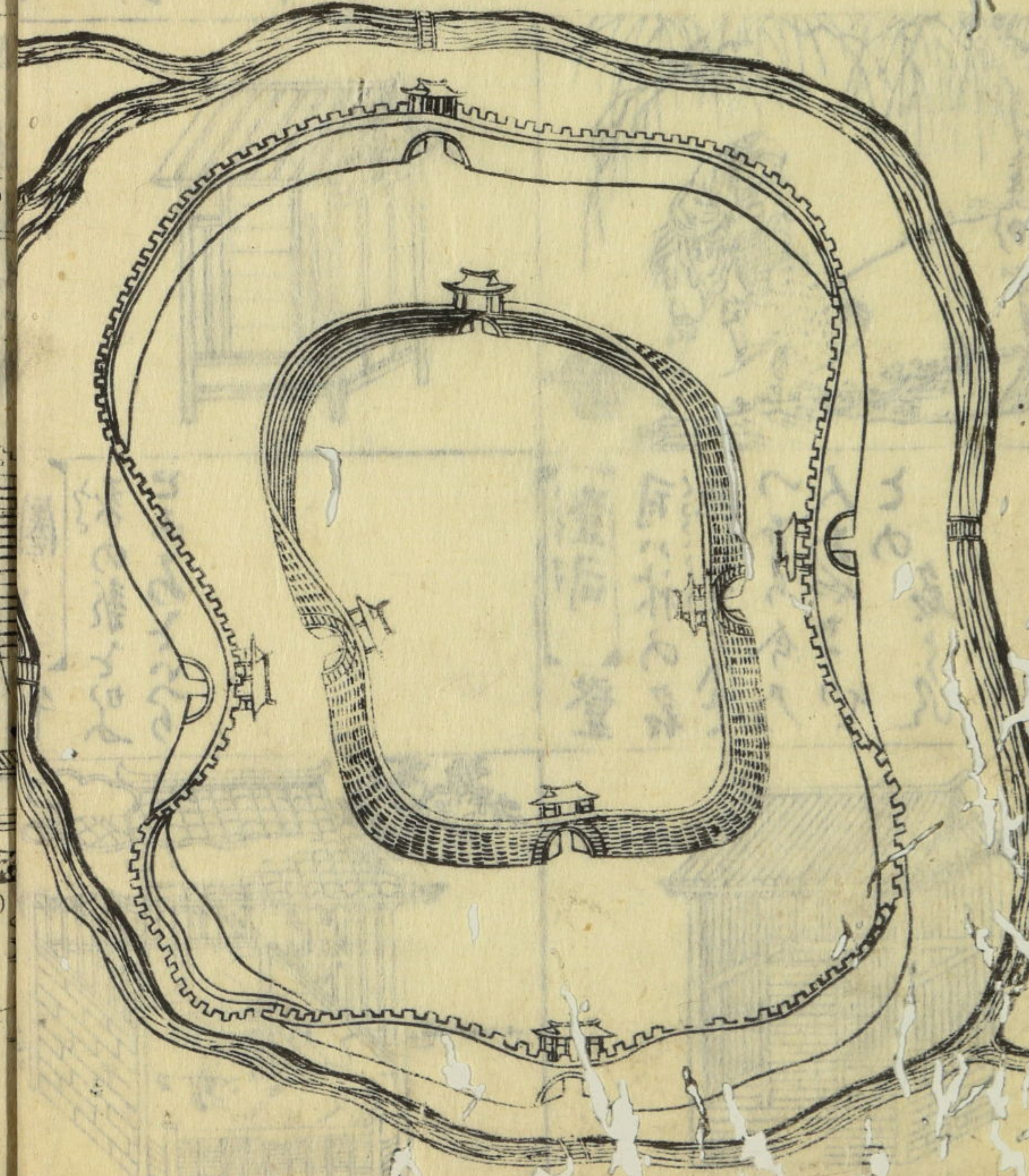
城の

城の

城の

城の

○傾城 破院の君
不と云ふこと
とも四方
ことわらぬし
まへそとに
いふこと

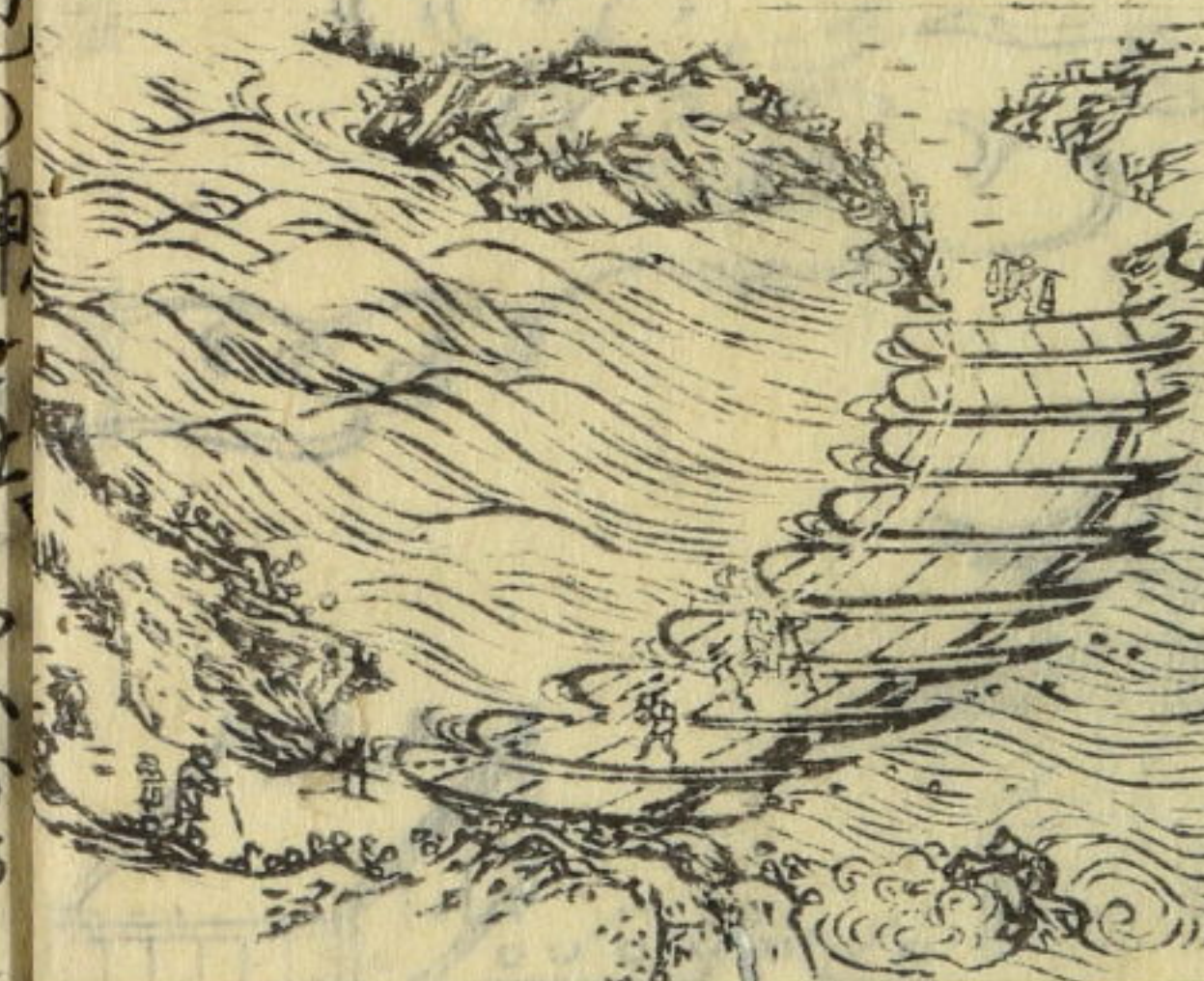
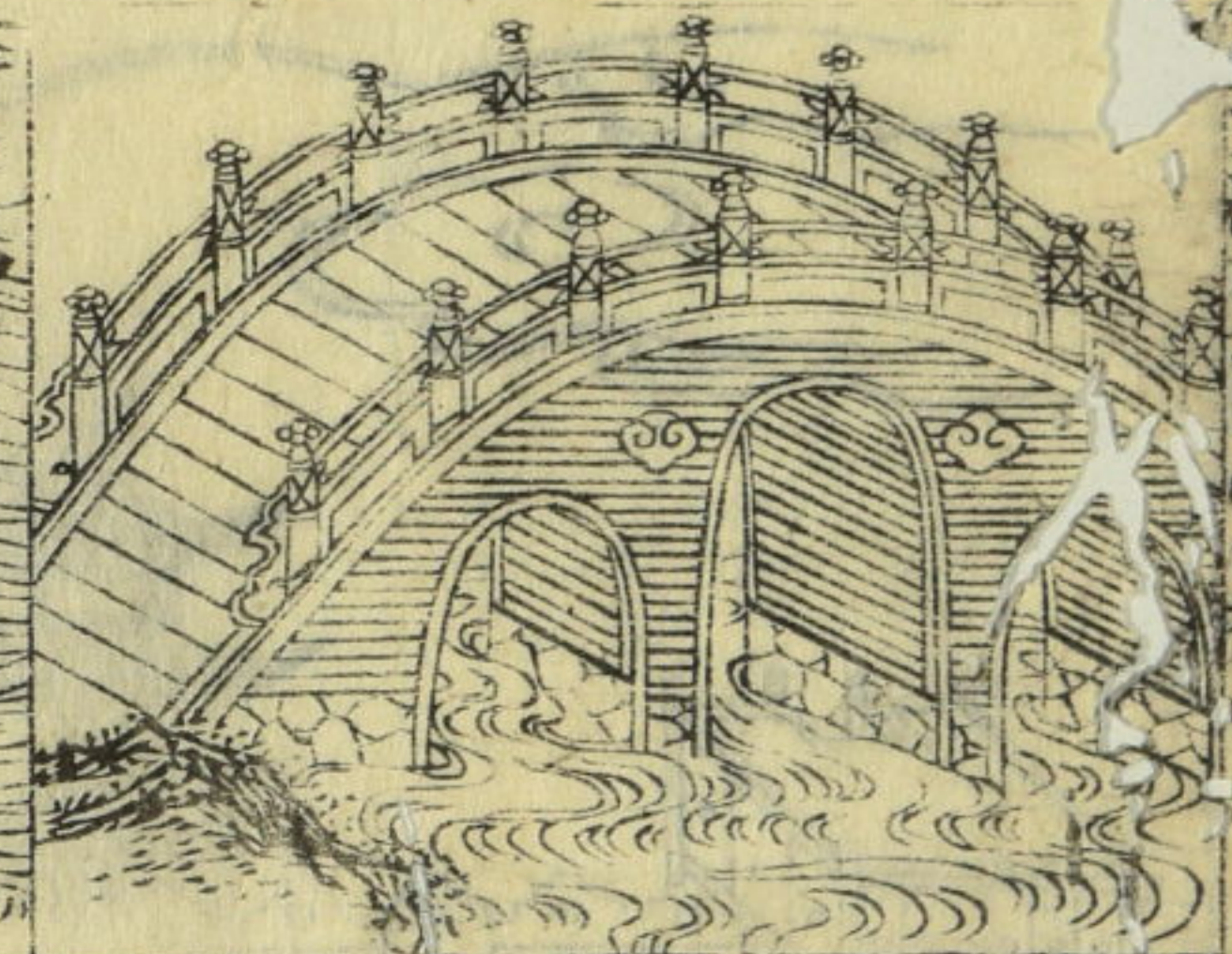


橋

水
橋は水に架かるものなり
橋は水に架かるものなり
橋は水に架かるものなり
橋は水に架かるものなり
橋は水に架かるものなり
橋は水に架かるものなり
橋は水に架かるものなり
橋は水に架かるものなり
橋は水に架かるものなり
橋は水に架かるものなり

維舟

天
子舟と造る
諸侯の維舟
大夫の方舟
士の特舟
秦の始皇は
とほり

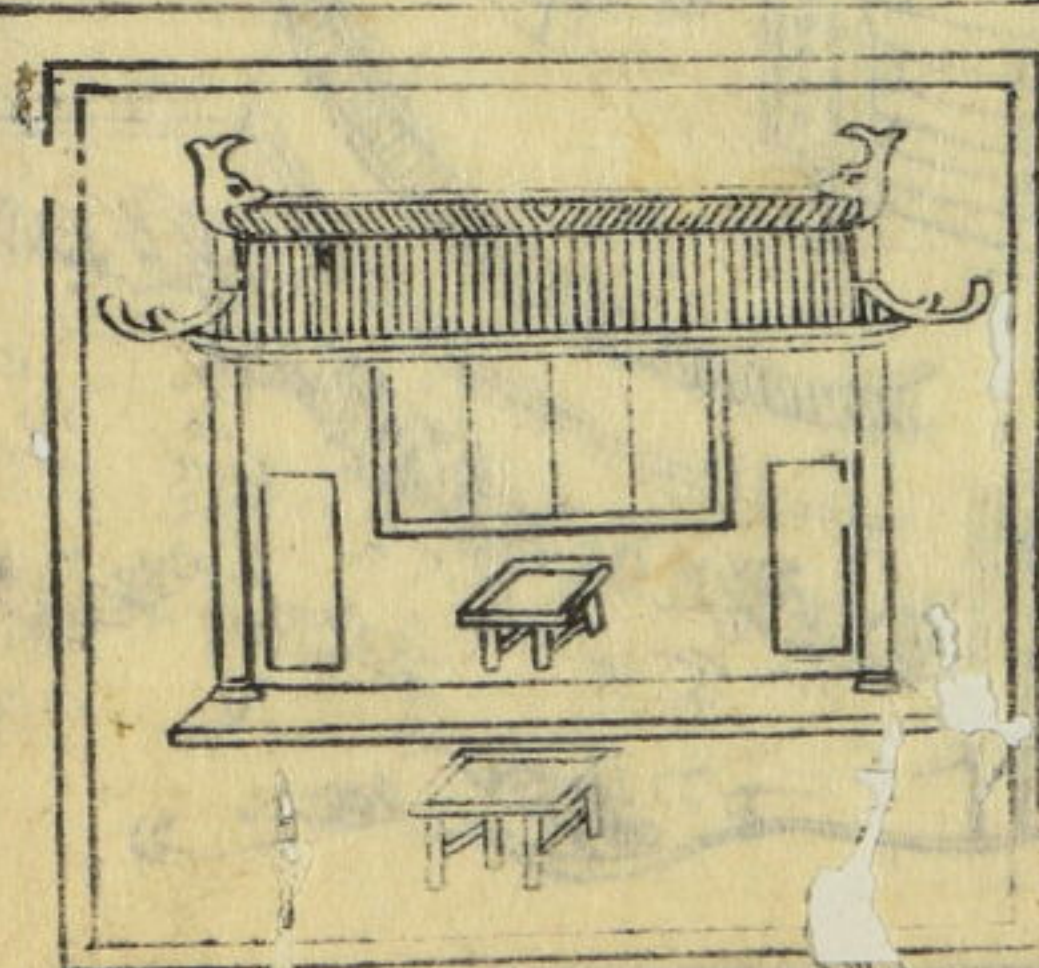
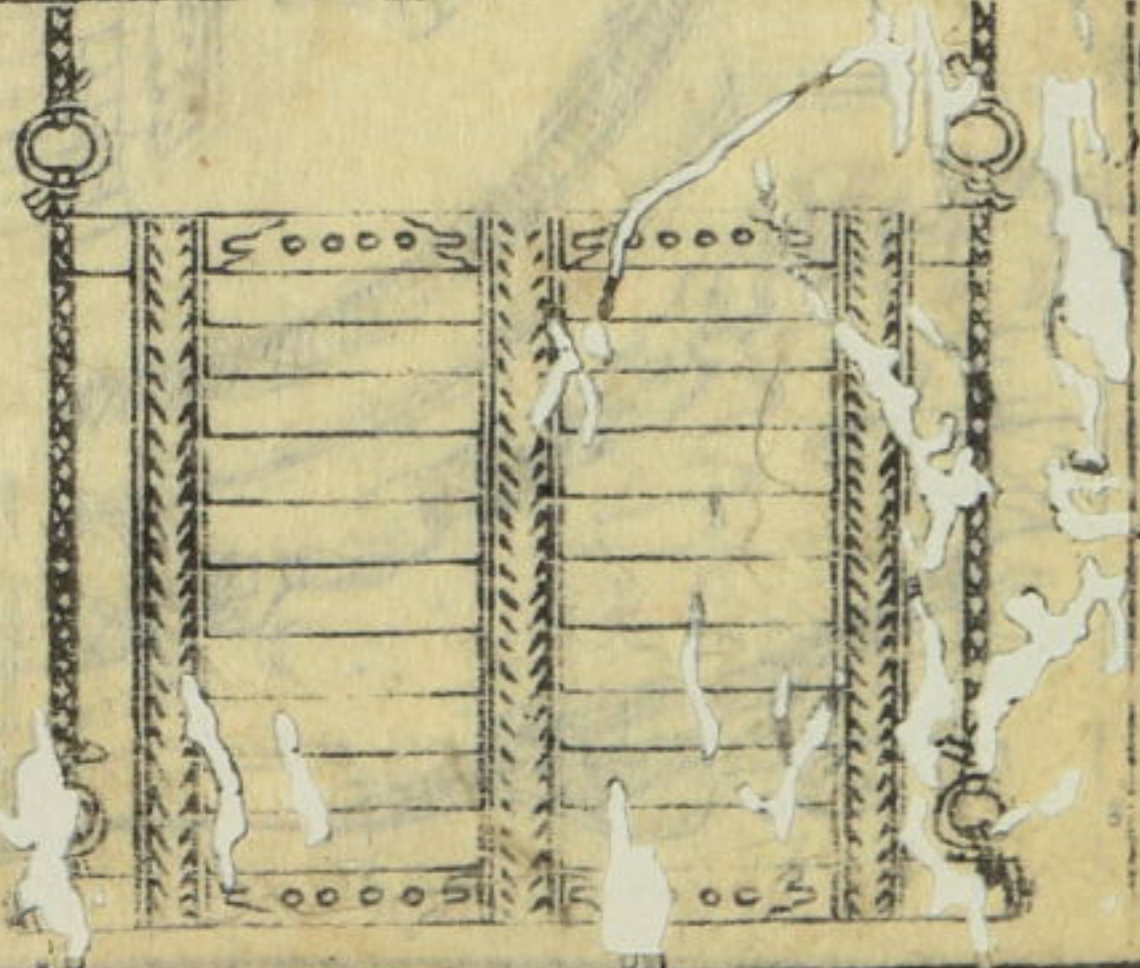


釣橋

用る具
橋の
施す
の洗
上は

祠堂

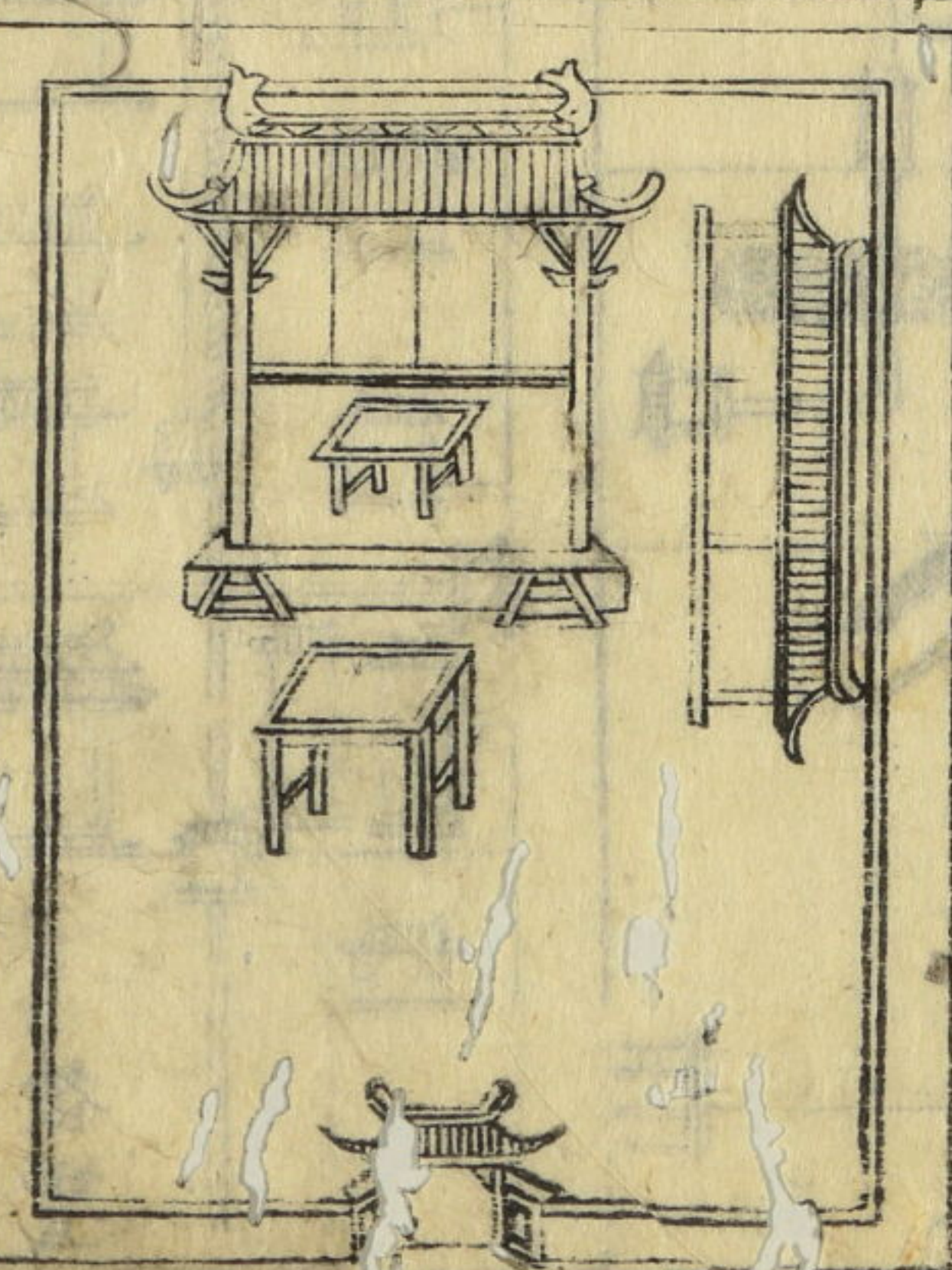
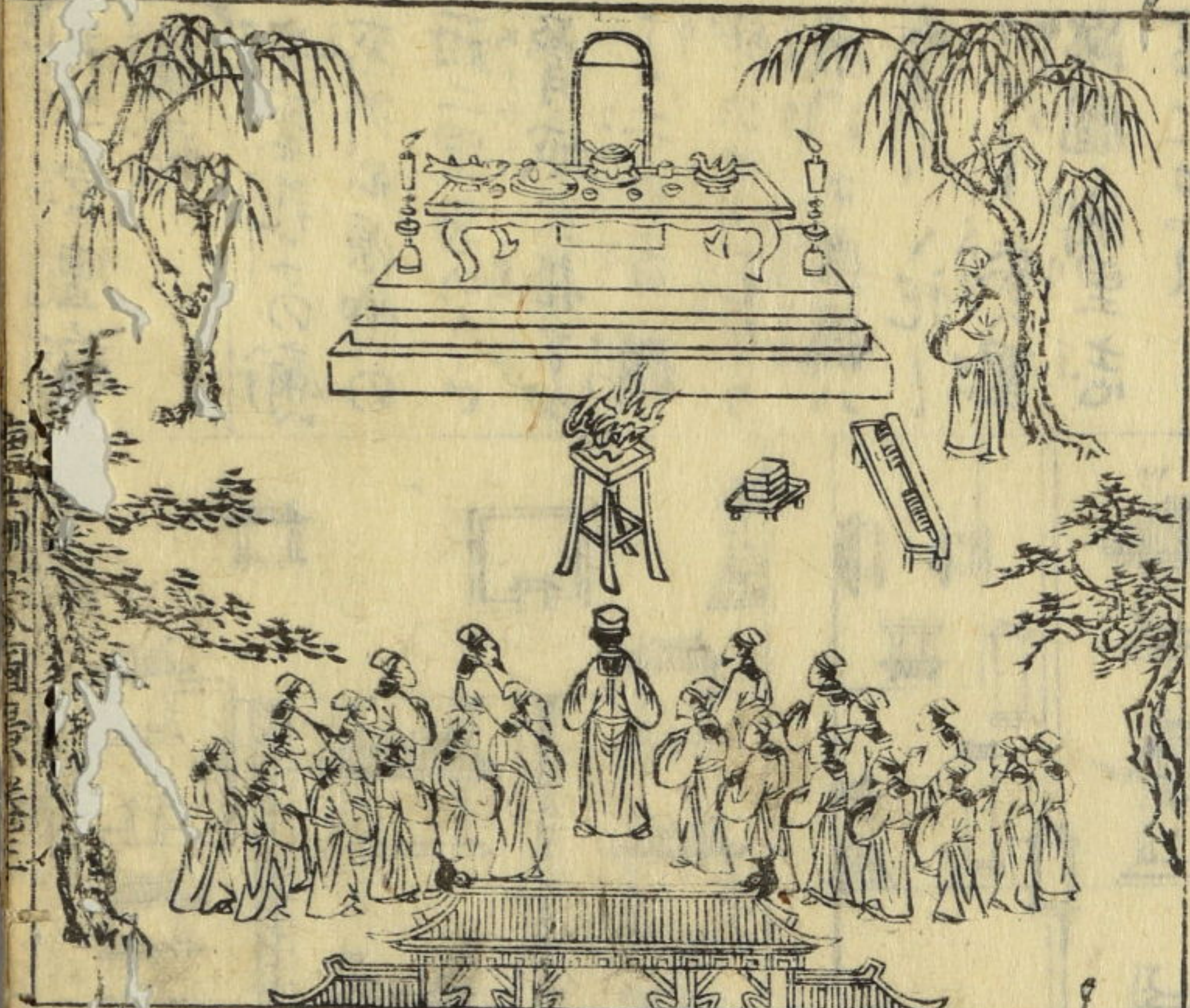
先
祖とまつる
併壇の
これハ



祠堂

是ハ二間の制
せらるる

神社儀

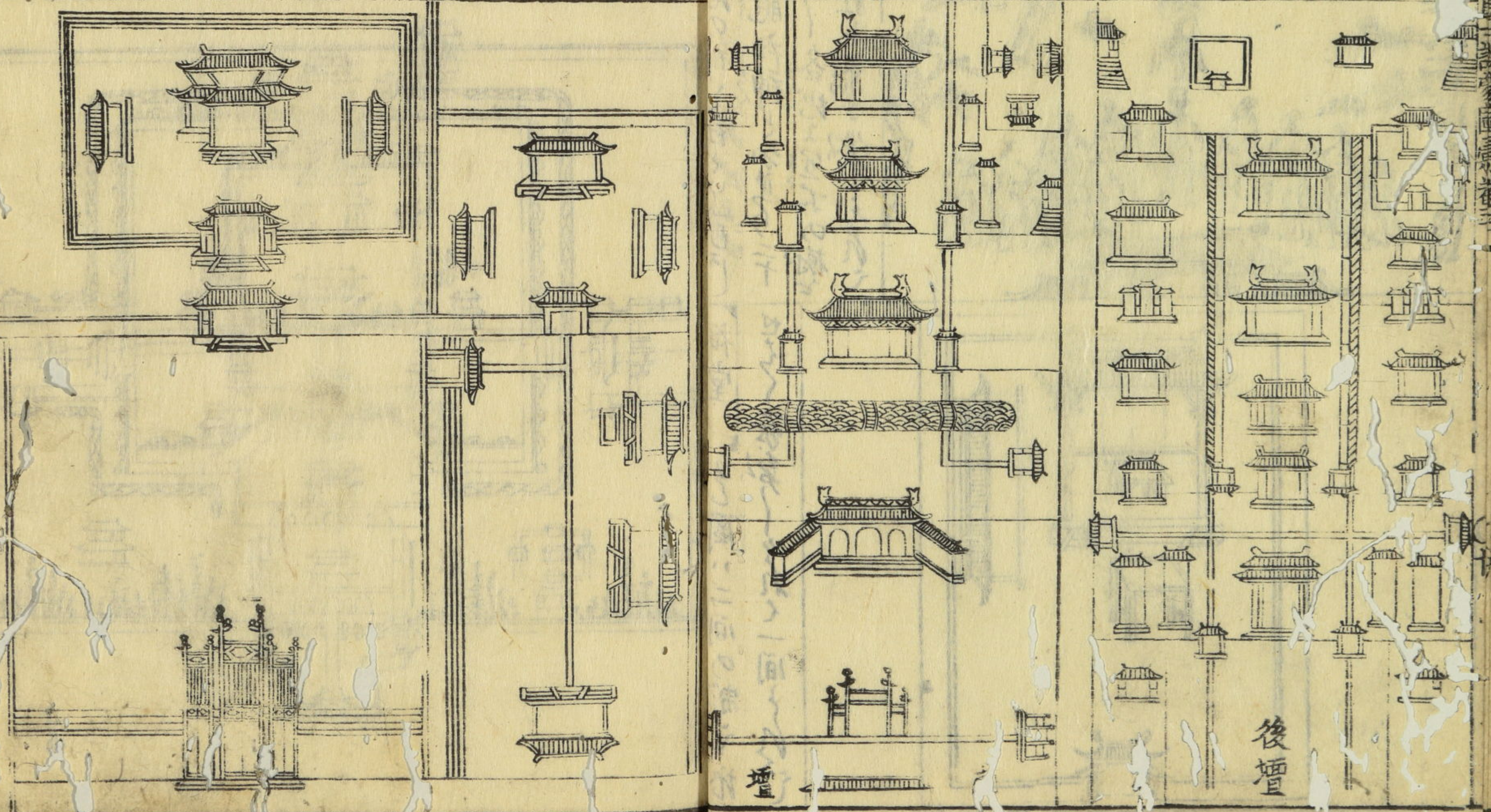


後園
先聖孔子の廟
充列仙源卿の

西二里あるのこ
魯城に接する
二百歩 闕
里の舊宅なり
殿門の結構ハ
あつく、祀
跡圖 闕里志
寫にんいり
あふに
あふに

廟
おと
ま

天子を
祖と祀る
所なり

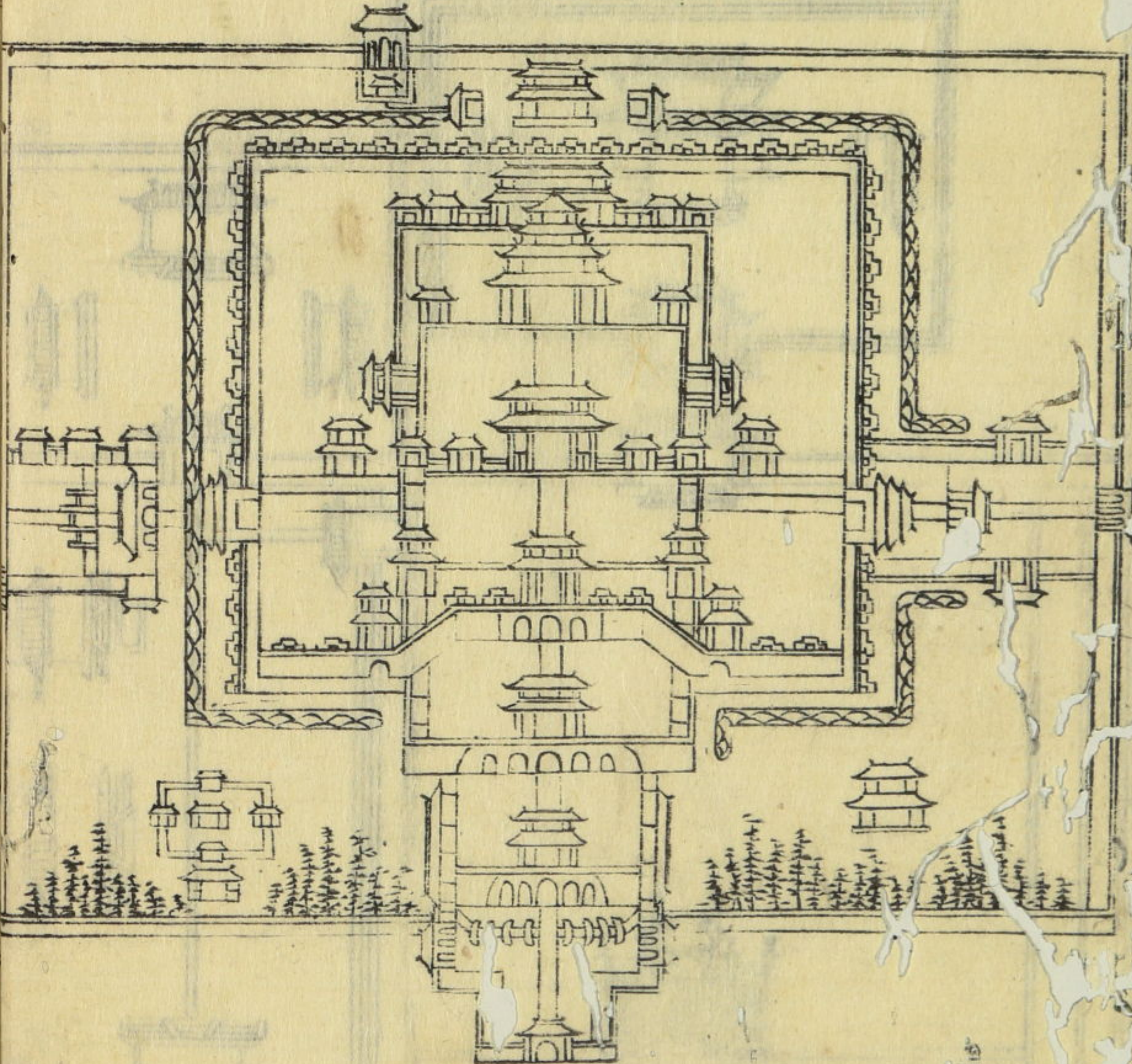
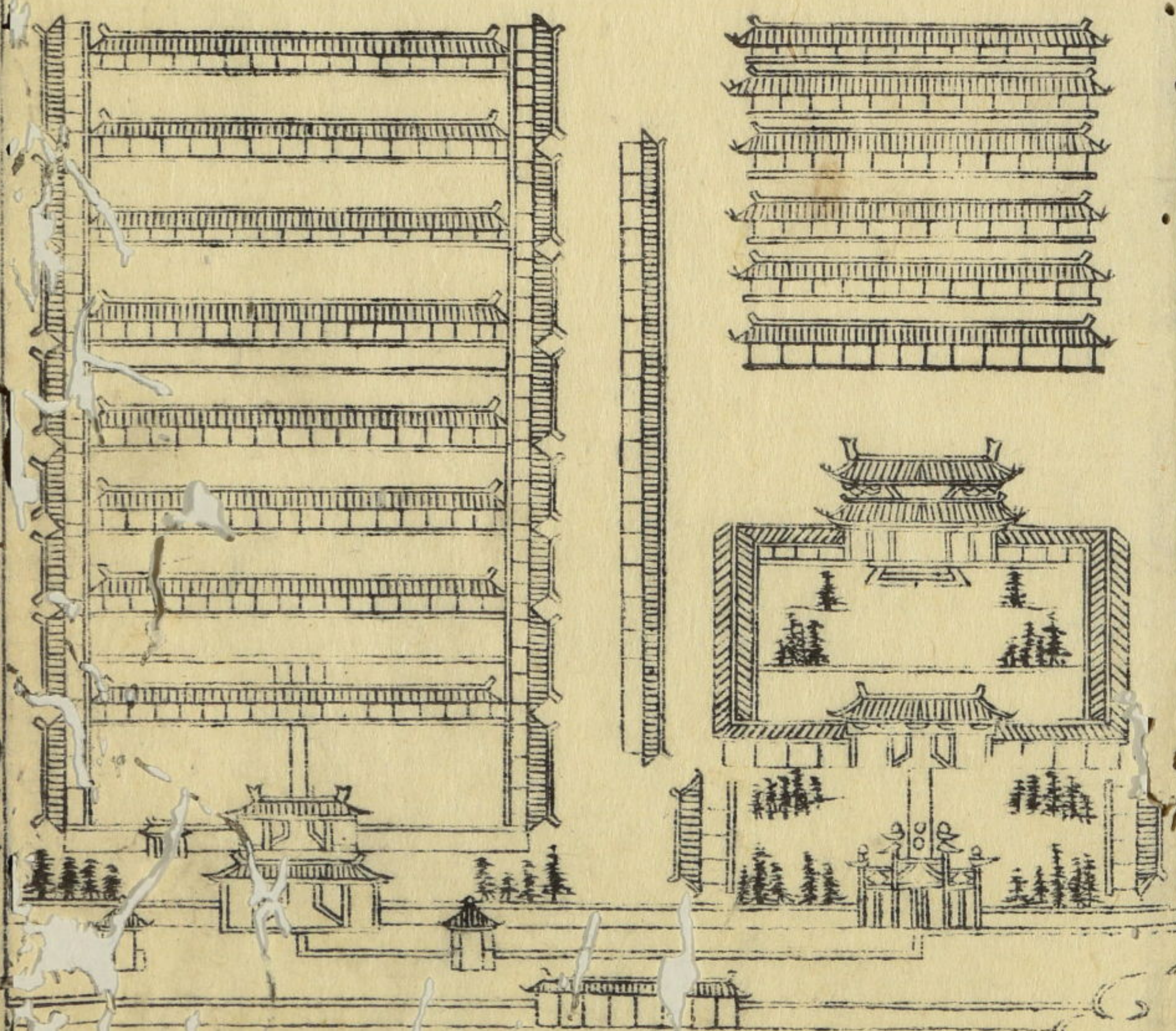


大學校 大學校

大學校

皇城圖

これ天子のまゝ
都の園今
よ禁裏



皇極經世一

唐土訓蒙圖彙卷之四

人物名の下に
之上 和名と附

人物

此部は上三皇五帝より君臣の名
一わづれらるる画像とよび佛祖神仙
蠻夷戎狄の形容とまゝしてりらぬ
とれ

渾沌氏

大荒の代せられて
その始とまると
天地の乃
と明たし陰
陽の道に遊し
神の道に遊し
万の



天皇氏

崑崙外のかう
出つふ徳あり
け時立運始て
おころ大化始
てま人の風
俗真け潔し
いつて



神皇氏 雄
取龍門の岳
に出つ火徳有
道と得て中
央に兼之と
す

伏羲氏 木

徳と以て天
總て王より八
卦とけり書
契と造る在
位一百一十年
なり

軒轅氏 黄

帝徳と脩め
兵と治り蚩尤
と戮天下
命に敏に涿鹿
に都る在
位一十年
三百歳なり

陶唐氏 帝

堯ハ平陽に於
て其仁ハ天
のふく其知ハ
神の如く百姓
安樂に在位
九十八年
百歳なり



神皇氏 刑

馬山提地
國の玉徳
あり山川を
相て裁て九
州とけり
神農氏 火

神農氏 火

徳と以て王に
て天下を耕と
す日中
市とけり百
草とみえて
醫薬とけり

有虞氏 帝

舜ハ蒲坂に都
る父瞽瞍に
母囂才傲て
常に殺んれ
るも孝なり
堯帝の禪と
うけて在位五
十年 壽百十
歳なり

夏禹王 舜

命して水と治め
る其功あり
舜位と禪て
在位一十年
百歳なり



高陽王 殷

子名ハ殷復の
祭と代てこ
トとたもてり
毫とりの一
邦一々の一在
位十二年壽
百歳なり



周武王 姓ハ

姬名ハ発父
西伯王 聖徳と
以て天下と三
分にしてその
二とたもてり
武王紂と代
天下とたもてり



微在位五十四

年壽七十一
古の初統を
一此時始て
かこまの武帝
こかると神仙
とふのり費
わり



漢光武 漢東

姓ハ劉名ハ秀
民用より兵を
わきて王莽と
誅一漢室と
中興を在位
三十三歳壽
六十二なり



項王 項

籍の羽臨漢
の八尺二
寸力能鼎と
抗秦とわらぬ
漢の高祖
と戦て利あり
て自刎て
死に



漢高祖 姓ハ

劉名ハ邦下
沛の人秦と
楚と并て帝
位を帝を火
徳と以て長安
に都に在位
漢高祖五十二



魏太祖 曹

操小字ハ阿瞞
沛國譙の人
漢の獻帝の時
義兵とよ
と戦功と
漢室と



漢中王と稱

後即位あり
在位三年壽
六十三なり



吳大帝 姓孫名權魏文帝 吳王に封じ位を即ぐ金陵に都り在位三十一年 壽七十一なり



西武帝 姓ハ

司馬名ハ炎司馬懿孫位と篡て自立り洛陽に都り吳と平て混一にあり在位二十五年 壽



武氏ハ太宗の才人なり高宗を立て皇后とす高宗山崩し朝に臨み中宗と瘵して潛立るとり在位二十一年 壽八十一



唐玄宗 睿

宗才二の子し安祿山に交りたり蜀に幸して位を太子と稱し在位四十四年 壽七十八なり



梁武帝 姓ハ蕭名ハ衍 位を傳兒甚くは法と信に侯景と圍て鎔て崩しあり 壽八十六なり



唐太宗 名ハ

世氏高祖才二の子ハ太子建威と殺し立て太子とすあり時天下よく治り貞觀の政と稱する



趙名ハ匡胤 在位十六年 壽五十なり 太祖始後周二事して歳功とす後自ら禪とあり



元世祖 姓ハ

孛兒只斤 鉄木真 蒙古部人なり世に古部の長と稱して王たり



明太祖 姓

朱長諱元章
至正十五年義
兵とどこし洪
武元年即位
在位三十一年
年壽七十一
なり



倉頡 黃

帝の所れ人
始て鳥の姿
くわて字とつ
くわて天かれ
くわに粟とふ
ら一鬼とふ
哭れ世人遂
字ハ頤とつ
判



伯夷 名ハ

元字ハ公信
とふの叔齊
とふとつ
俱と逃く西伯
と敏武王の
紂と伐とつ
凍む首陽
山と隠て飢
武王周公共
に聖人なり



周公 武

王乃弟名直
といへ成王の
幼と相て政
と撰つへ
武王周公共
に聖人なり



太公望 姓ハ

姜氏名ハ子牙
又呂尚といへり
西伯涓陽
逢て車にのせて
ゆり立て師と
かへつ六韜
書法とつら



顔子 名ハ

回字ハ字淵魯
人心と潜く
道と體と
號して亞聖と
稱れ



先聖孔子

縣乃人周の靈王二十一年三月四日早時
生ハ周乃
敬王四十
一年四月
四日午時
二歳死ハ
年ハ七十
三魯の泗
水の上
葬



曾子 名ハ

参字ハ子輿
聖門一貫乃
傳と得
其学問の本源
考とつ
故に孝經
曾子の問



子思

伯孔子の孫伯魚の子衛子思
中庸と作り
聖學と演じて
次て孟子を
傳と啓り



孟子

軒字ハ子輿魯
の子孟孫の後鄒
人なり業と子
思の門に入りて
學既に通じて
齊梁の間に
あそぶ其學萬
世に明かり



張良

子房韓の公
子なり圯上老
人の書と授け
高祖に用られ
功成て後赤松
子と号ひたり
身と保り



韓信

の人なり漢王
壇と築て拜
して大將として
三秦とくまひ
大功とりて
後誣られ
斬死す



莊子

周字ハ子休宋
の人長桑公と
師に南華
仙人と号たり
著る内
篇五卷凡
十萬餘言也



屈原

平楚の同姓
三閭大夫と
憂愁して離
騷とけく
汨羅江に沈



司馬遷

字長史漢
の太初中に太
史令となり刑
をうけて憤を
發し史記と
修り万代史
官の法とたり



嚴子陵

光會稽百餘里
の人なり少
光武と同學
光武即位し
用んとせしが
山に耕し



諸葛孔明

葛亮字孔明南陽に寓居して新備往てこれを見ゆ終に鄧氏を助て名臣乃名とわたり



關羽

雲長河東解人なり蜀乃先主に事て恩兄弟の如し孫權築てこれとあら



杜子美

杜陵の人なり天寶の末賊を奏ん帝これと奇として拾送の官よりりは漢南よりがうり人の才一かり



李太白

の母張庚の懐に入しゆりて李白と有り因これに世に謫仙人と稱はれ子と一雙をわ



王羲之

之字逸少將軍會稽乃内史と月の上己の日山陰の蘭亭に會して風流の名あり又古今能書の才一かり



陶淵明

臣なり宋に在る名と最と潜字ハ元亮と名は世と靖節先生と号は酒隠し人なり



韓退之

愈字ハ退之南陽の人なり學者之んとわくと泰山北平の如し佛骨表と上り潮州に謫せ



柳子厚

宗元河東の人世に柳柳州と稱はれ韓柳と并稱也文章卓偉の進士



賈浪仙 名

嶋字ハ浪仙と
いり加ハ法乾
寺の僧なり
世に終に僧ハ
敲月下門の
句とけり人
なり

白樂天 名

居易大原乃
人敏悟人絶
なり十七あり
進士氣に登
その時乃の
慈恩塔上
其名慶十九

邵康節 名

雍字ハ堯夫河
南の人天文易
学の数理に達
し世の易と
者皆堯夫と
いふなりその
著に取皇極經
世書あり

程伊川 名

頤字ハ正叔聖
学の正脈と傳
孟子の氣象者
といひ所謂天
民乃先聖聖
代の真儒と
いふなり



司馬溫公 字

君實夏縣の人
君弟蕭然と
し國書ル
盛つその著
所資治通鑑
わり宋朝の
の人物なり

張橫渠 名

載字ハ子厚
長安の人西の
語とわくは学
問力行國中
士人の宗師と

程明道 名

顥字ハ伯淳
伊川の兄なり
兄才もは賢
名あり氣象
温和し
顔子に似たり
といふなり

周濂溪 名

惇頤字ハ茂
叔道初營道
の人人品高く
胸中洒落
光風霽月の
と黄山



歐陽永叔

脩字永叔廬陵人少以孤貧自給其文筆才一の文章なり

陸子静

九淵字子静象山先生と稱し語録世に傳ふ

蘇東坡

子瞻名軾東坡居士と号し眉山の人翰林字子瞻文筆古今絶れて畫も亦名家なり

許魯齋

謙字益之金華の人學の程朱の統と化その外天文地理典章字學醫術教乃



朱晦菴

熹字元晦之學を以て周程の書と註し大成の真儒なり

黃山谷

庭堅字魯直洪州の人官大史に至り初李公擇と石牛洞山谷寺に相まじり常に遊ぶ故山谷道

薛文清

瑄字德温山西河津の人年十二にして詩賦と善なり進士に登り御史に擢らる諸生薛夫子と号す

王文成

仁字伯安餘姚の人教賊とわがらわり學の陸象山の右とて心學の宗たり世に揚明先聖と稱す



公文之職將神酉丁



圖之星魁



音之觀之衣之白



佛之尼之牟之迦之釋



佛神仙類

馬之司之名將神卯丁



通之叔之名將神未丁



君之帝之武之真



音之觀之海之南



卷四

九

甲子神將名衛玉卿



甲戌神將名展子江



丁巳神將名趙子王



丁巳神將名崔巨卿



甲辰神將名孟非卿



甲申神將名龐文長



甲子神將名王文卿



丁亥神將名張文通



甲寅神將名明文童



太公上老君



西王母



彭祖



天駒之神 先皇元妃西陵氏



東方朔



呂洞賓



登の神へ天駒の星をりらとてハ登此れ
精の美帝の元妃西陵氏といハ始

張果老



陶弘景



萬國
君子國



黔契丹



王質



陳圖南



扶桑國



巴赤舌



唐書卷四

包石



吾原愛達



紅



女暮樂



阿恩



無連蒙古



土麻



阿里車盧並



乾魯國



擺里



采牙金鹿



鐵東



深烈大



大羅國



後眼國



歌祭



卷四

十四

利



乞黑奚



氏百五散僧



方連魯



骨利國



木思奚德



黑蒙國



訖魯



獸國



木直契



近佛國



鳥伏奇國



獠



西洋國



文身國



道明國



蘇那國



唐土譜圖卷四

蘇那國



烏孫國



正黎國



乾陀國



龜茲國



新千里國



擔波國



故馬足定千

唐土神遊圖卷四



下靈



長脚 長臂 月國

長脚 國ノ人ト
長臂 國ト相
近シ其人 常ニ
長臂ヲ負テ
海中ニ入テ
魚ヲトル



